宇美町
まちづくりに関する町民意識調査
報告書

令和４年３月

宇　美　町

目　次

Ⅰ　調査の概要及び回答者の属性 1
１　調査の概要 1
（１）調査目的 1
（２）調査対象及び調査方法、回収結果. 1
（３）本報告書の留意事項. 1
２　回答者の属性 2
（１）性別 2
（２）年齢 2
（３）職業 2
（４）同居家族 3
（３）居住地区 3
Ⅱ　調査結果 4
１　まちへの愛着度と定住意向などについて. 4
（１）まちへの愛着度. 4
（２）宇美町の魅力. 6
（３）今後の定住意向. 8
（４）住みたくない主な理由. 10
２　まちの現状と今後の取組について. 12
（１）まちの各施策に関する満足度. 12
（２）まちの各施策に関する重要度. 22
（３）まちの各施策に関する満足度と重要度の相関. 31
（４）今後のまちづくりの特色. 34
３　日頃の行動や考えなどについて. 36
（１）宇美町は安全に暮らせるまちだと思うか. 36
（２）災害時の避難路・避難場所を知っているか. 37
（３）ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがあるか. 38
（４）健康増進のための取組をしているか. 39
（５）高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っているか. 40
（６）安心して子どもを産み育てることができると思うか. 41
（７）この１年間に生涯学習活動をしたか. 42
（８）町内にある歴史文化遺産を誇りに思うか. 44
（９）大野城跡が日本遺産に認定されていることを知っているか. 45
(10) 宇美町電子図書館を利用できることを知っているか. 46
(11) 環境に配慮した生活をしているか. 47
(12) ４Ｒ運動をしているか. 48
(13) 自然と共生する魅力あるまちづくりが行われているか. 49

（14）情報を得るために使っている手段 50
（15）今後の宇美町職員に特に求めるもの 52
（16）公共施設の更新問題を知っているか 54
（17）議会審議の動画を見たいか 55
４　地域コミュニティ・共働について 56
（１）地域活動への参加状況と参加意向 56
（２）今後参加したい地域活動等 58
（３）今後参加しない理由 60
（４）共働のまちづくりを進めるために必要なこと 62
５　幸福実感について 64
（１）幸福実感について 64
資料：調査票 67

Ⅰ　調査の概要及び回答者の属性

１　調査の概要

（１）調査目的

本調査は、第７次宇美町総合計画（令和５年度～令和 12 年度）の策定にあたって、まちへの愛着度や今後の定住意向をはじめ、まちの各施策に関する満足度と重要度、今後のまちづくりの特色など、町民の意識やニーズを把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

（２）調査対象及び調査方法、回収結果

項　目	町　民	中学生	職　員
名　称	宇美町まちづくりに関する町民意識調査	宇美町まちづくりに関する中学生アンケート調査	宇美町まちづくりに関する職員意識調査
調査対象	18 歳以上の町民	町内の中学２年生	町職員
配布数	3,000	394	197
抽出法等	無作為抽出	全数調査	全数調査
調査方法	郵送法	学校への依頼と郵送法の併用	町役場での配布・回収
調査時期	令和３年 10 月	令和３年 10 月	令和３年 10 月
有効回収数	1,441	330	191
有効回収率	48.0%	83.8%	97.0%

（３）本報告書の留意事項

① 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下２位を四捨五入して算出しています。従って、総数と内訳の合計は必ずしも一致しません。

② 基数となるべき実数（回答者数）は、“ｎ＝○○○”として掲載し、各比率はｎを100%として算出しています。

③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、１人の回答者が２つ以上の回答を出してもよい問です。従って、各回答の合計比率は 100%を超える場合があります。

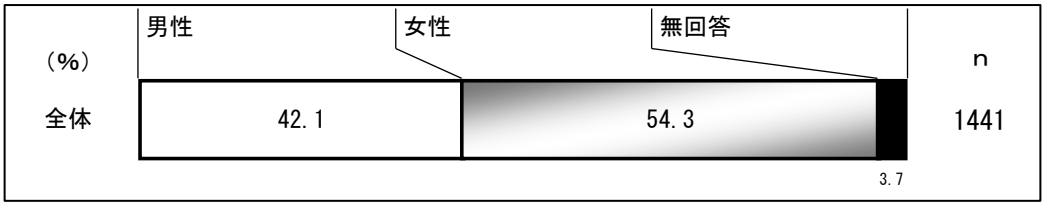
④ 10 代の回答者数が 22 人（1.5%）と少数であったため、調査結果（Ｐ４以降）は、20 代（95 人）とあわせて「10・20 代」として分析しています。

⑤ 前回の調査（宇美町まちづくりに関する町民意識調査）の結果と比較している部分がありますが、前回は、平成 29 年７月に 18 歳以上の町民 1,000 人を対象に実施したものであり、有効回収数は 496、有効回収率は 49.6%となっています。

２　回答者の属性

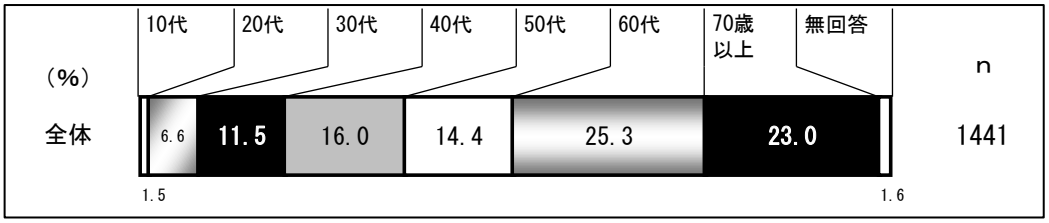
（１）性別

回答者の性別構成は、「女性」が 54.3%、「男性」が 42.1%となっています。



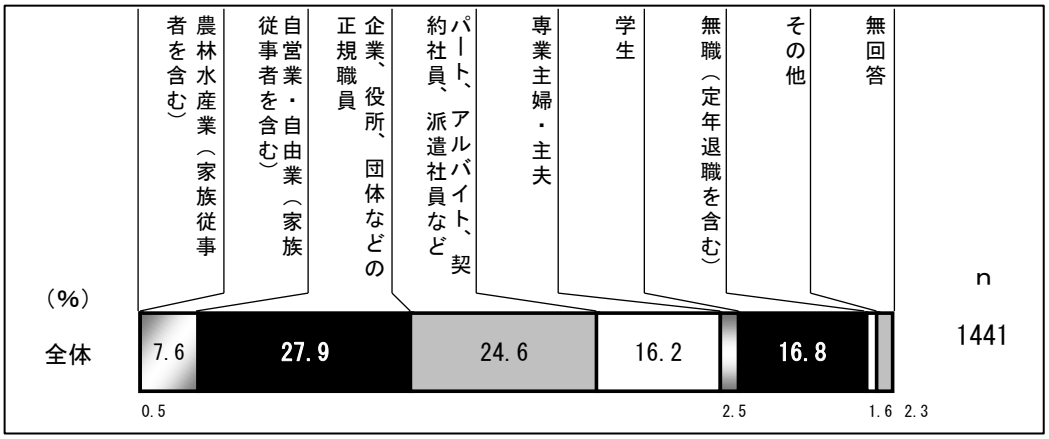
（２）年齢

回答者の年齢は、「60 代」(25.3%)、「70 歳以上」(23.0%)、「40 代」(16.0%)、「50 代」(14.4%)、「30 代」(11.5%)、「20 代」(6.6%)、「10 代」(1.5%) の順となっています。



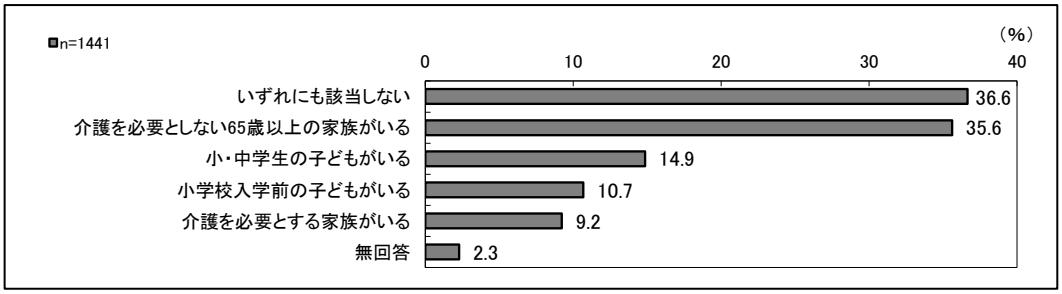
（３）職業

回答者の職業は、「企業、役所、団体などの正規職員」(27.9%)、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員など」(24.6%)、「無職（定年退職を含む)」(16.8%)、「専業主婦・主夫」(16.2%)、「自営業・自由業（家族従事者を含む)」(7.6%)、「学生」(2.5%)、「その他」(1.6%)、「農林水産業（家族従事者を含む)」(0.5%) の順となっています。



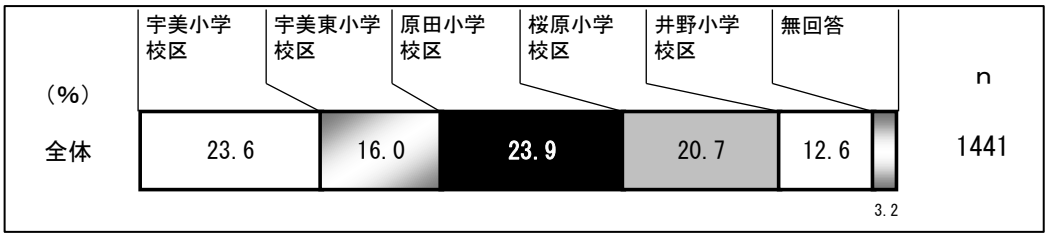
（４）同居家族

回答者の同居家族については、「いずれにも該当しない」(36.6%)、「介護を必要としない 65 歳以上の家族がいる」(35.6%)、「小・中学生の子どもがいる」(14.9%)、「小学校入学前の子どもがいる」(10.7%)、「介護を必要とする家族がいる」(9.2%)の順となっています（複数回答)。



（３）居住地区

回答者の居住地区は、「原田小学校区」(23.9%)、「宇美小学校区」(23.6%)、「桜原小学校区」(20.7%)、「宇美東小学校区」(16.0%)、「井野小学校区」(12.6%）の順となっています。



Ⅱ　調査結果

１　まちへの愛着度と定住意向などについて

（１）まちへの愛着度

問２　あなたは、宇美町に対して「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか。

▼

● “愛着を感じている”が 61.7%、“愛着を感じていない”が 9.0%。

町民のまちに対する愛着度を把握するため、「とても愛着を感じている」、「どちらかというと愛着を感じている」、「どちらともいえない」、「あまり愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」の中から１つを選んでもらいました。

その結果、「どちらかというと愛着を感じている」と答えた人が 44.4%で最も多く、これと「とても愛着を感じている」（17.3%）をあわせた“愛着を感じている”という人が 61.7%となっています。

これに対し、“愛着を感じていない”という人（「あまり愛着を感じていない」6.5%と「愛着を感じていない」2.6%の合計）は 9.0%で、多くの町民が本町に愛着を感じていることがうかがえます。**［図表１参照］**

前回の調査結果と比較すると、“愛着を感じている”という率が３ポイント低下しているものの、大きな差はありません。

中学生の調査結果（宇美町が好きか）と比較すると、“好きだ（愛着を感じている）”という率はほぼ同様でした。**［下記【比較】参照］**

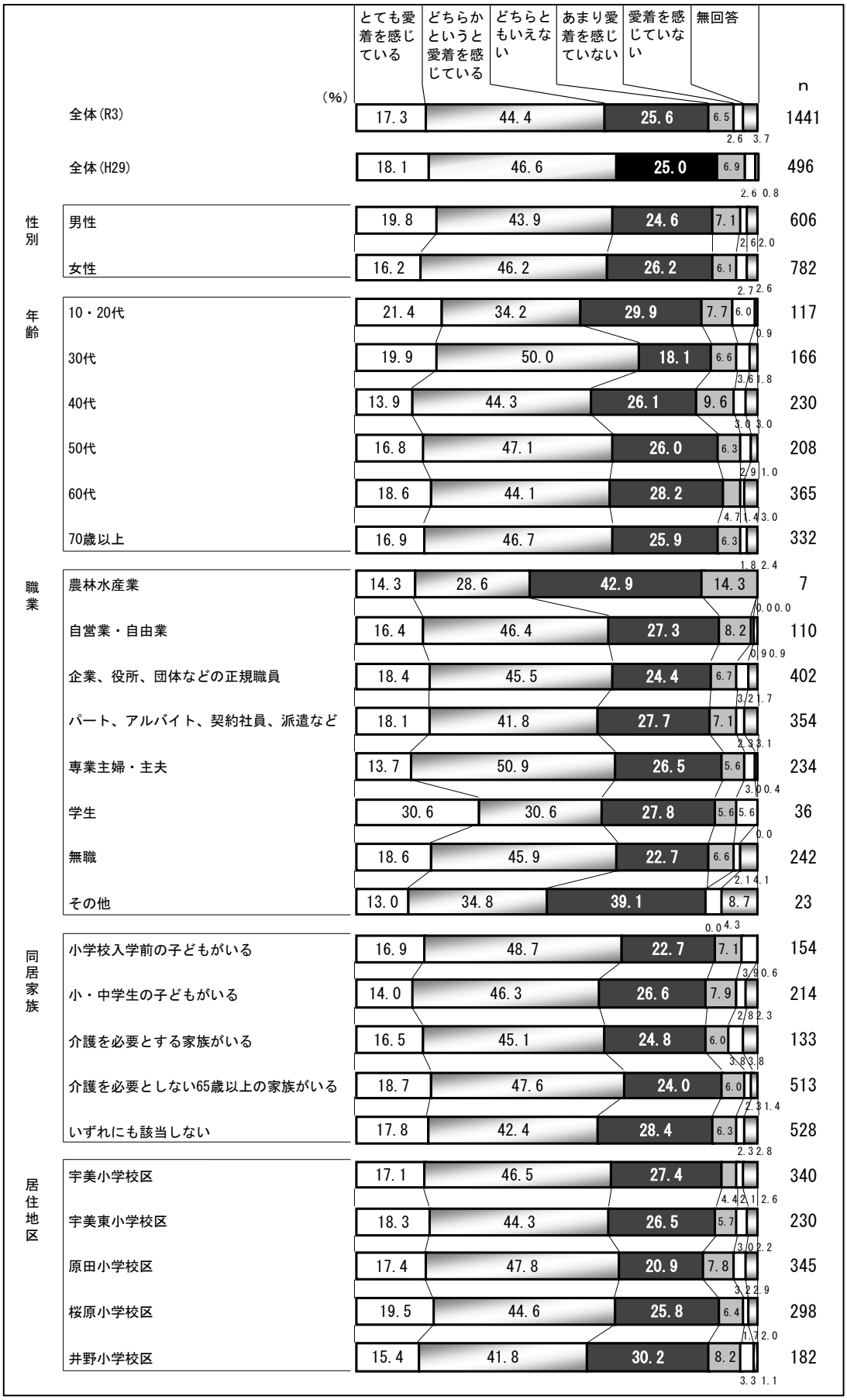
属性別で“愛着を感じている”という率をみると、性別では、男性が 63.7%、女性が 62.4%と、大きな違いはみられません。

年齢別では、高い順に 30 代（69.9%）、50 代（63.9%）、70 歳以上（63.6%）、60 代（62.7%）、40 代（58.3%）、10・20 代（55.6%）で、30 代で高く、10・20 代と 40 代で低くなっており、特に、30 代の愛着が最も強いことが本町の特徴としてあげられます。**［図表１参照］**

【比較】

前回の調査結果	“愛着を感じている”が 64.7%、“愛着を感じていない”が 9.5%。
中学生の調査結果	“好きだ”が 63.0%、“好きではない”が 8.8%。

図表１　まちへの愛着度（全体・性別・年齢・職業・同居家族・居住地区）



（２）宇美町の魅力

問３　あなたは、宇美町のどのようなところが魅力だと思いますか。【複数回答】

▼

● 「自然環境が豊かである」が他を引き離して第１位、次いで「買物の便がよい」、「住みやすい住宅地がある」の順。

宇美町の魅力については、「自然環境が豊かである」（61.8%）が他を引き離して第１位、「買物の便がよい」（25.2%）が第２位、「住みやすい住宅地がある」（22.1%）が第３位、続いて「歴史的・文化的資源が豊かである」（19.8%）、「生活環境施設が整っている」（17.4%）、「道路・交通の便がよい」（16.0%）の順となっており、“自然の豊かさ”をはじめ、“買物の便のよさ”や“住宅地の存在”、“歴史的資源の豊かさ”、“整備された生活環境施設”、“道路・交通の便のよさ”を本町の魅力と感じる人が多くなっています。[図表２参照]

前回の調査結果（選択肢はやや異なる）と比較すると、前回の選択肢にはなかった「住みやすい住宅地がある」を除くと、上位回答はほぼ同様で、大きな変化はみられません。

中学生の調査結果と比較すると、「自然環境が豊かである」が第１位であることに変わりはありませんが、第２位をみると、町民で第２位の「買物の便がよい」は中学生では第７位で、中学生では「人がやさしい」（町民では第７位）が第２位となっています。

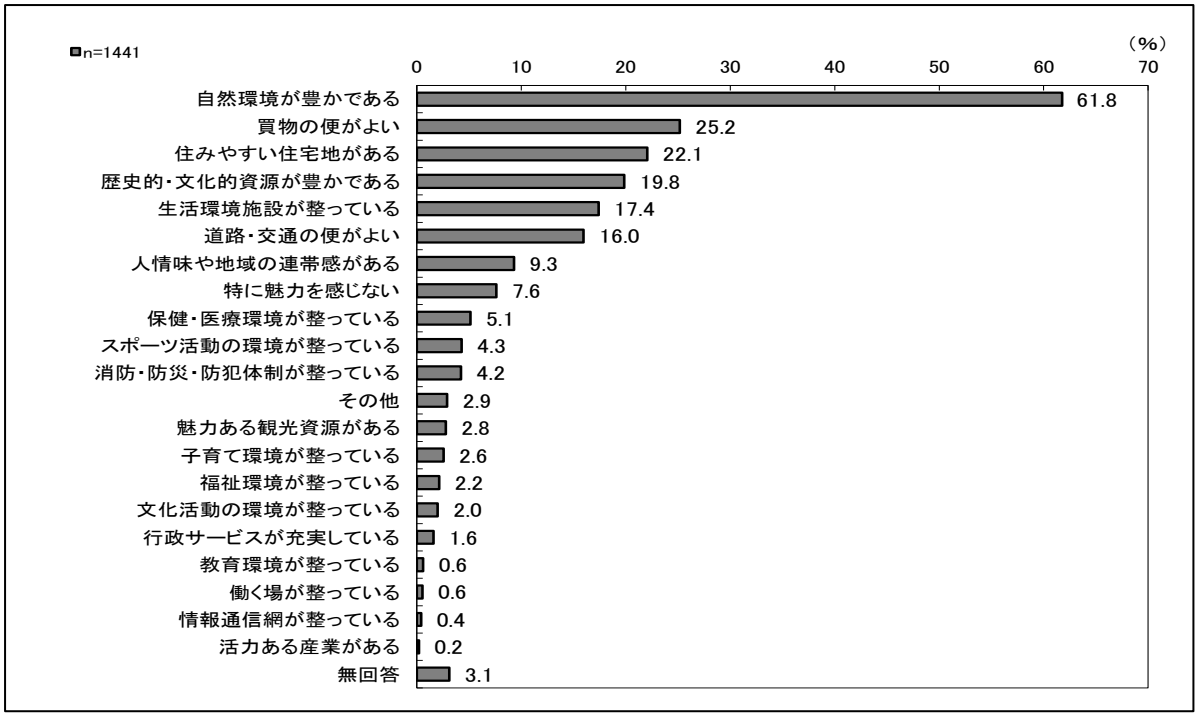
職員の調査結果と比較すると、やはり「自然環境が豊かである」が第１位であることに変わりはありませんが、第２位をみると、町民で第２位の「買物の便がよい」は職員では第 13 位で、職員では「歴史的・文化的資源が豊かである」（町民では第４位）が以下を引き離して第２位となっており、職員では、“自然の豊かさ”に次いで、“歴史資源の豊かさ”を町の魅力と考える人が多くなっています。[下記【比較】参照]

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「自然環境が豊かである」が第１位、ほとんどの属性で「買物の便がよい」あるいは「住みやすい住宅地がある」が第２位となっていますが、50 代では「歴史的・文化的資源が豊かである」（22.6%）が第２位（「住みやすい住宅地がある」と同率２位）、70 歳以上や宇美東小学校区では「生活環境施設が整っている」（32.2%・21.3%）が第２位となるなど、年齢や居住地区によって若干の違いがみられます。[図表３参照]

【比較】

前回の調査結果	「自然環境が豊かである」、「買物の便がよい」、「生活環境施設が整っている」の順。
中学生の調査結果	「自然が豊かだ」、「人がやさしい」、「歴史的なものが多い」の順。
職員の調査結果	「自然環境が豊かである」、「歴史的・文化的資源が豊かである」、「生活環境施設が整っている」・「魅力ある観光資源がある」の順。

図表２　宇美町の魅力（全体／複数回答）



図表３　宇美町の魅力（全体・性別・年齢・居住地区－上位３位／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		自然環境が豊かである 61.8	買物の便がよい 25.2	住みやすい住宅地がある 22.1
性別	男性	自然環境が豊かである 60.9	住みやすい住宅地がある 26.1	買物の便がよい 24.4
	女性	自然環境が豊かである 65.1	買物の便がよい 26.6	歴史的・文化的資源が豊かである 21.7
年齢	10・20代	自然環境が豊かである 57.3	住みやすい住宅地がある／買物の便がよい 21.4	
	30代	自然環境が豊かである 72.9	住みやすい住宅地がある 26.5	買物の便がよい 25.9
	40代	自然環境が豊かである 62.6	買物の便がよい 20.4	歴史的・文化的資源が豊かである 18.7
	50代	自然環境が豊かである 65.4	住みやすい住宅地がある／歴史的・文化的資源が豊かである 22.6	
	60代	自然環境が豊かである 64.4	買物の便がよい 28.5	住みやすい住宅地がある 24.1
	70歳以上	自然環境が豊かである 56.0	生活環境施設が整っている 32.2	買物の便がよい 30.1
居住地区	宇美小学校区	自然環境が豊かである 56.8	買物の便がよい 31.8	道路・交通の便がよい 25.9
	宇美東小学校区	自然環境が豊かである 73.9	生活環境施設が整っている 21.3	歴史的・文化的資源が豊かである 18.7
	原田小学校区	自然環境が豊かである 66.4	買物の便がよい 24.3	住みやすい住宅地がある 22.6
	桜原小学校区	自然環境が豊かである 61.4	買物の便がよい 32.9	住みやすい住宅地がある 25.5
	井野小学校区	自然環境が豊かである 58.8	住みやすい住宅地がある 29.1	歴史的・文化的資源が豊かである 25.8

（３）今後の定住意向

問４　あなたは、これからも宇美町に住みたいと思いますか。

▼

● **“住みたい”が 62.1%、“住みたくない”が 10.3%。**

町民の今後の定住意向を探るため、「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない（できれば町外へ引越したい）」の中から１つを選んでもらいました。

その結果、「住みたい」と答えた人が 32.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば住みたい」と答えた人が 29.5%で続き、これらをあわせた“住みたい”という人が 62.1%となっています。

これに対し、“住みたくない”という人（「どちらかといえば住みたくない」7.8%と「住みたくない（できれば町外へ引越したい）」2.4%の合計）は 10.3%で、多くの町民が本町に定住したいと考えていることがうかがえます。**［図表４参照］**

前回の調査結果と比較すると、“住みたい”という率は同様であり、定住意向は変わっていないことがうかがえます。

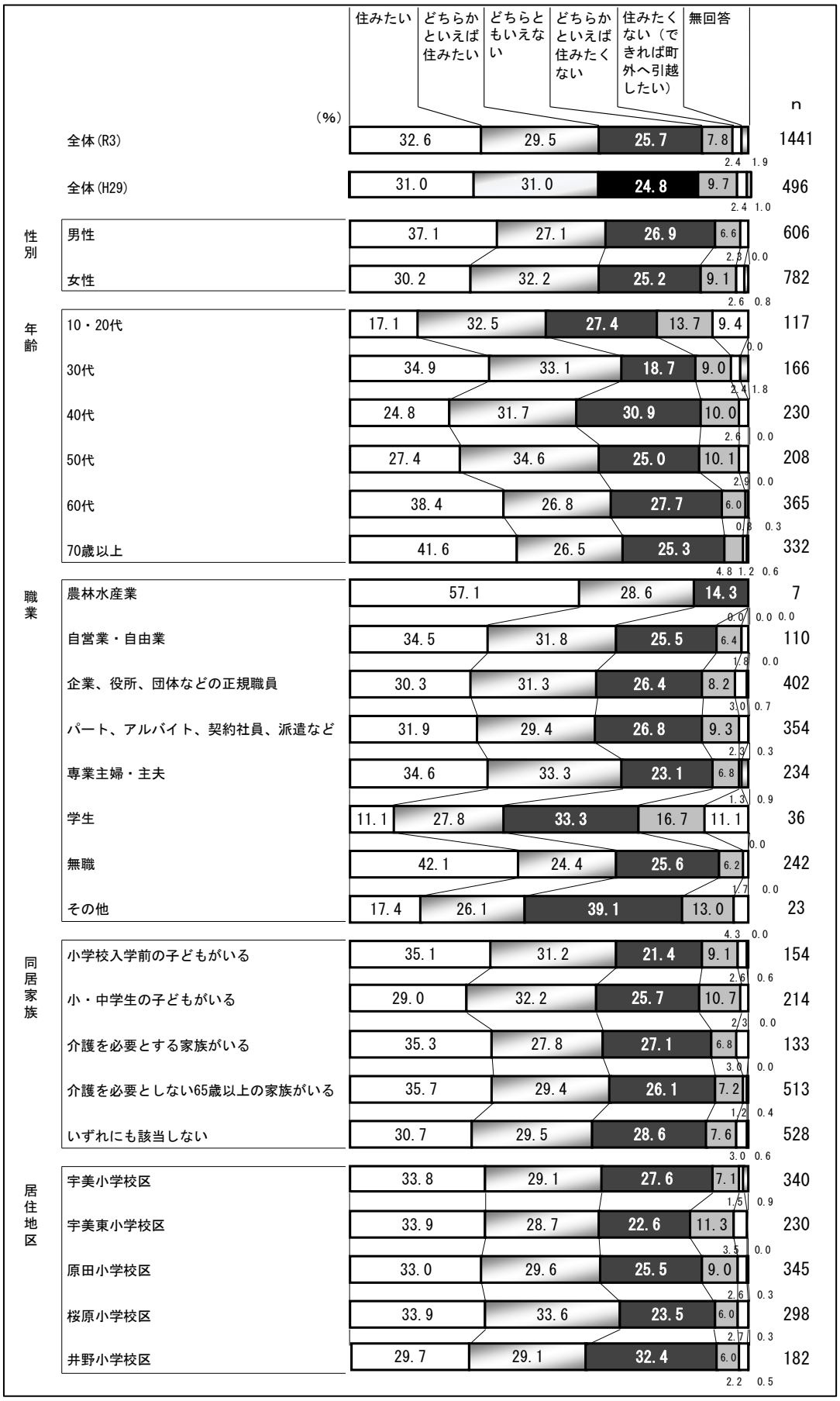
中学生の調査では、「大人になっても宇美町に住みたいと思いますか。」という問に同じ選択肢で１つを選んでもらいました。結果は、「どちらともいえない」が 52.4%、“住みたい”が 20.9%、“住みたくない”が 26.7%でした。まちへの愛着度（問２）の結果は、町民の調査結果とほぼ同様だったことをあわせて考えると、“宇美町は好きだ”が、“大人になっても住みたいかどうかはどちらともいえない”という回答が多く、“住みたい”という回答を“住みたくない”という回答が上回っています。**［下記【比較】参照］**

属性別で“住みたい”という率をみると、性別では、大きな違いはみられませんが、年齢別では、高い順に、30 代と 70 歳以上（同率 68.1%）、60 代（65.2%）、50 代（62.0%）、40 代（56.5%）、10・20 代（49.6%）で、まちへの愛着度（問２）と同様に、30 代で高く、10・20 代で低くなっており、特に、30 代の定住意向が最も強いことが本町の特徴としてあげられます。**［図表４参照］**

【比較】

前回の調査結果	**“住みたい”が 62.1%、「どちらともいえない」が 24.8%、“住みたくない”が 12.1%。**
中学生の調査結果	**“住みたい”が 20.9%、「どちらともいえない」が 52.4%、“住みたくない”が 26.7%。**

図表４　今後の定住意向（全体・性別・年齢・職業・同居家族・居住地区）



（４）住みたくない主な理由

※問４で「４.」または「５.」に○をつけた方にうかがいます。
問４－２　その主な理由はなんですか。【複数回答】

▼

●　「道路・交通の便が悪い」が第１位、「買物の便が悪い」が第２位。

問４で“住みたくない”と答えた 148 人（全体の 10.2%）に、住みたくない主な理由をたずねたところ、「道路・交通の便が悪い」(69.6%) が第１位、「買物の便が悪い」（37.8%）が第２位で、これらは他を引き離して代表的な理由となっており、“道路・交通や買物の便の悪さ”を指摘する人が多くなっています。

これら以外では、「働く場が不十分」(18.9%)、「行政サービスが不十分」(17.6%)、「子育て環境が不十分」（14.2%）などの順となっています。**[図表５参照]**

前回の調査結果（選択肢はやや異なる）と比較すると、第３位と第４位が入れ替わっているものの、上位回答はほぼ同様で、大きな変化はみられません。

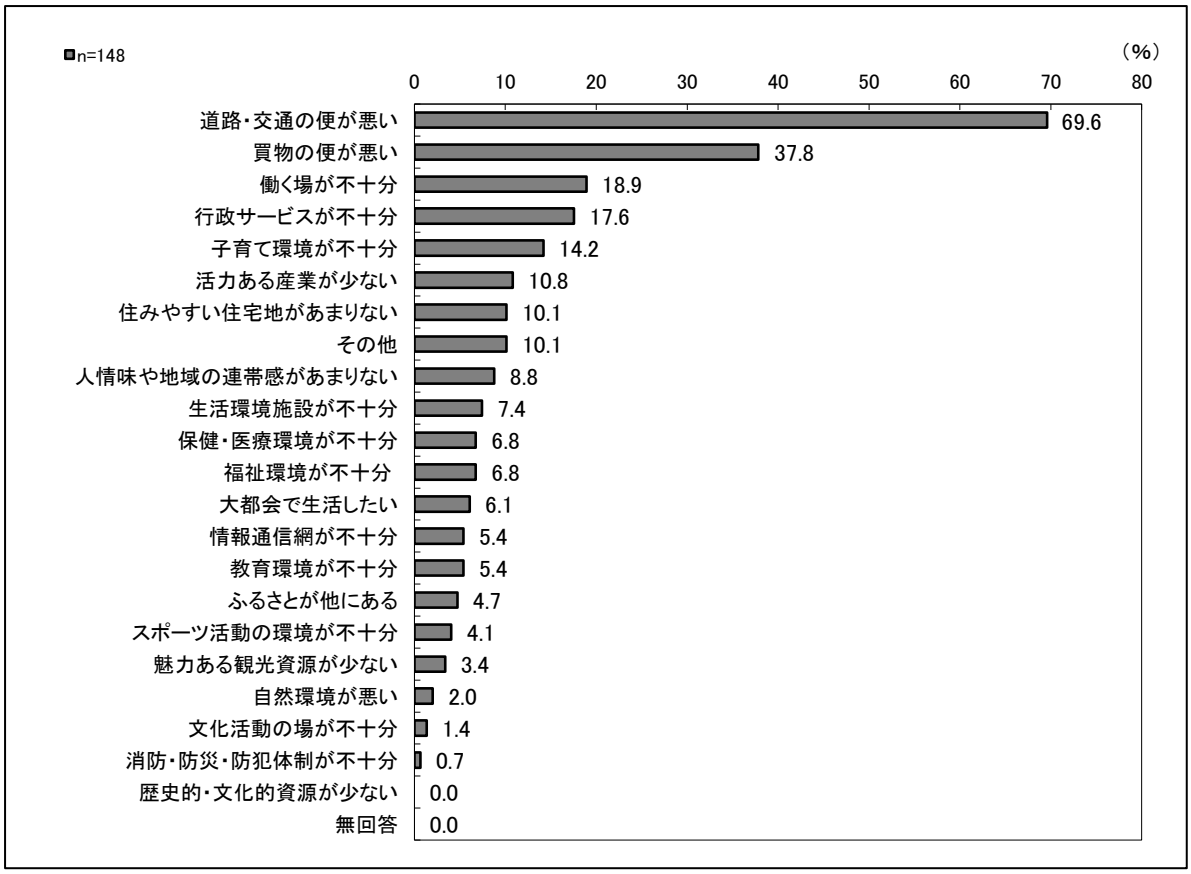
中学生の調査結果と比較すると、「買物の便が悪い」が第２位であることは共通していますが、第１位をみると、町民では「道路・交通の便が悪い」（中学生では第５位）、中学生では「都会で暮らしたい」（町民では第 13 位）となっており、町民では“道路・交通の便の悪さ”、中学生では“都会へのあこがれ”が最も大きな理由としてあげられています。

職員の調査結果（宇美町の問題なところ）と比較すると、「道路・交通の便が悪い」が第１位であることは共通していますが、第２位をみると、町民で第２位の「買物の便が悪い」は職員では第４位で、職員では「活力ある産業が少ない」(町民では第６位）が第２位となっており、職員では、“道路・交通の便の悪さ”に次いで、“活力ある産業の少なさ”を指摘する人が多い結果となっています。**[下記【比較】参照]**

【比較】

前回の調査結果	**「交通の便が悪い」、「買物の便が悪い」、「行政サービスが不十分」の順。**
中学生の調査結果	**「都会で暮らしたい」、「買物の便が悪い」、「大学や仕事で町外へ出るつもり」の順。**
職員の調査結果	**「道路・交通の便が悪い」、「活力ある産業が少ない」、「魅力ある観光資源が少ない」の順。**

図表５　住みたくない主な理由（全体／複数回答）



２　まちの現状と今後の取組について

（１）まちの各施策に関する満足度

問５　宇美町では、現在、第６次総合計画後期実践計画に基づき、次のような施策を行っています。
　それぞれの施策について、以下の内容をおたずねしますので、あなたのお考えに最も近いものを、項目ごとにそれぞれ１つ選んで、数字に○印をつけてください。
（１）あなたは、この施策にどの程度満足していますか。【満足度】

▼

- **満足度が最も高い項目は「循環型社会形成の推進」、次いで「読書活動の推進」、「上・下水道の整備」の順。**
- **満足度が最も低い項目は「道路網の充実」、次いで「交通網の充実」、「観光の振興」の順。**

まちの各施策について、町民がどの程度満足しているかを把握するため、第６次宇美町総合計画後期実践計画に基づき、８分野 31 項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の５段階で評価してもらい、加重平均値による数量化［**後述参照**］で評価点（満足度：最高点 10 点、中間点０点、最低点－10 点）を算出しました。

その結果、満足度か最も高い項目は「循環型社会形成の推進」（2.86 点）で、次いで第２位が「読書活動の推進」（1.72 点）、第３位が「上・下水道の整備」（1.67 点）、続いて「文化財の保存と活用」（1.43 点）、「自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備」（1.29 点）、「町民の健康づくりの推進」（1.22 点）、「防災対策の充実」（1.20 点）、「スポーツ活動の推進」（1.11 点）などの順となっています。

一方、満足度が最も低い項目は「道路網の充実」（-1.27 点）で、次いで第２位が「交通網の充実」（-0.78 点）、第３位が「観光の振興」（-0.76 点）、続いて「商工業・サービス業の振興」（-0.47 点）、「交通安全の充実」（-0.25 点）、「都市機能の立地誘導・集約」（-0.22 点）、「生活環境の保全・向上」（-0.19 点）、「農林業の振興」（-0.15 点）などの順となっています。

分野別にみると、共働・地域コミュニティ分野、安全安心分野、福祉・保健分野、子育て・教育・文化分野、生活環境分野、共生・行財政分野がプラスの評価点となり、産業分野、都市基盤分野がマイナスの評価点となっています。［**図表６参照**］

前回の調査結果と比較すると、満足度が大幅に上がった項目は「商工業・サービス業の振興」（0.66 点上昇）、「都市機能の立地誘導・集約」（0.57 点上昇）、「子育て支援の充実」（0.53 点上昇）、「共働の推進」（0.52 点上昇）などで、満足度が大幅に下がった項目は「生涯学習の推進」（0.70 点低下）などとなっています。

職員の調査結果と比較すると、満足度の上位３項目と下位３項目はほぼ同様であり、まちの各施策に関する満足度については、町民の評価と職員の評価はほぼ一致しているといえます。［**下記【比較】及びＰ15【前回調査との比較】参照**］

【比較】

前回の調査結果	満足度が高い項目:「循環型社会形成の推進」、「上・下水道の整備」、「読書活動の推進」の順。
	満足度が低い項目:「道路・交通網の充実」、「商工業・サービス業の振興」、「観光の振興」の順。
職員の調査結果	満足度が高い項目:「読書活動の推進」・「循環型社会形成の推進」、「上・下水道の整備」の順。
	満足度が低い項目:「道路網の充実」・「交通網の充実」、「観光の振興」の順。

※加重平均値の算出方法

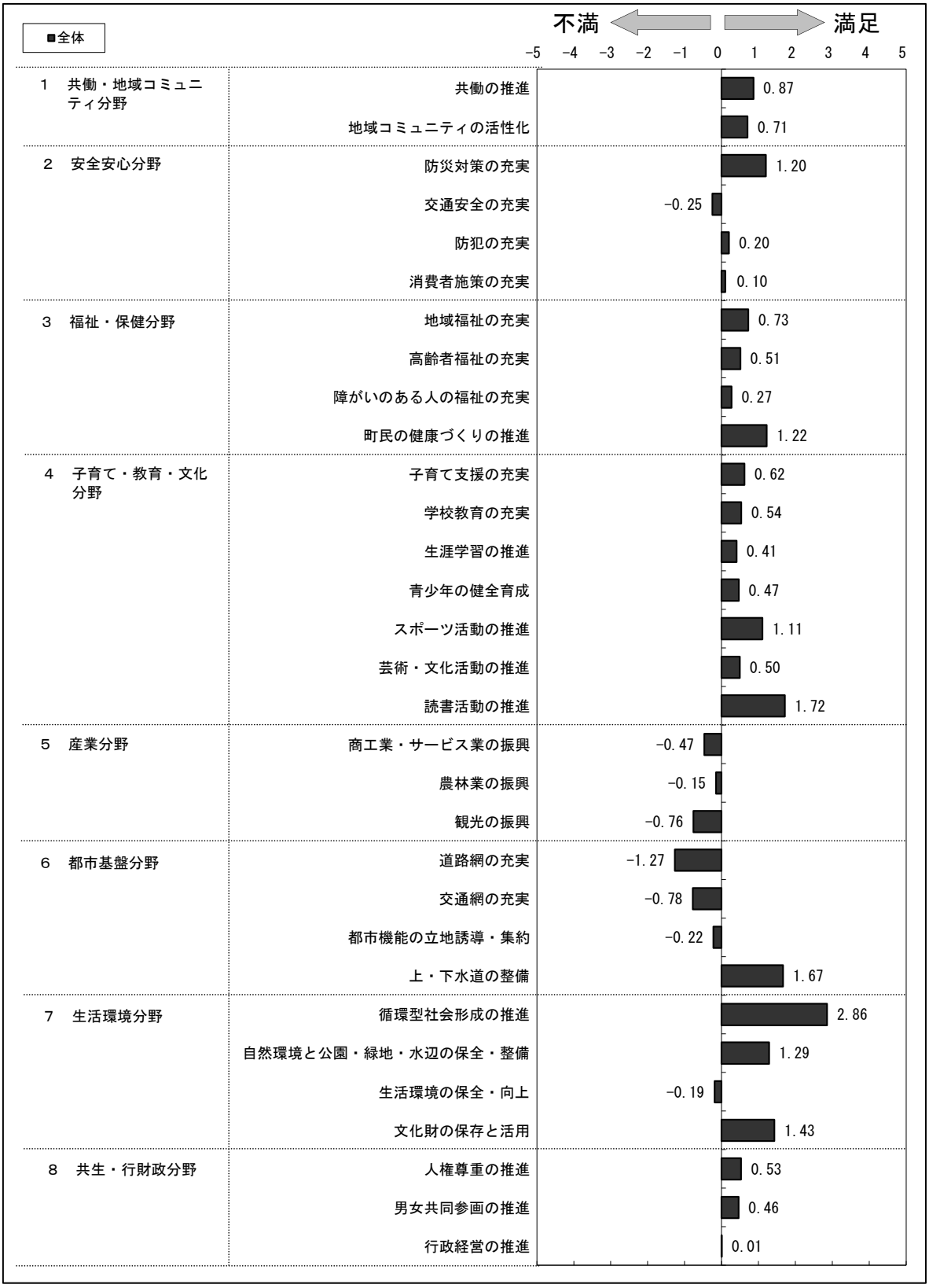
５段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

評価点＝（「満足している」の回答者数×10 点 ＋ 「どちらかといえば満足している」の回答者数×５点 ＋ 「どちらともいえない」の回答者数×０点 ＋ 「どちらかといえば不満である」の回答者数×－５点 ＋ 「不満である」の回答者数×-10 点）÷（「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の回答者数）

この算出方法により、評価点(満足度)は 10 点～－10 点の間に分布し、中間点の０点を境に、10 点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に－10 点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表６　まちの各施策に関する満足度（全体）

（単位：評価点）



【前回調査との比較】（全体）

（単位：評価点）

分野	項目	前回の満足度	今回の満足度	比較
1　共働・地域コミュニティ分野	共働の推進	0.35	0.87	0.52 上昇
	地域コミュニティの活性化	0.52	0.71	0.19 上昇
2　安全安心分野	防災対策の充実	0.75	1.20	0.45 上昇
	交通安全の充実	0.17	-0.25	-
	防犯の充実		0.20	-
	消費者施策の充実	0.17	0.10	0.07 低下
3　福祉・保健分野	地域福祉の充実	0.44	0.73	0.29 上昇
	高齢者福祉の充実	0.40	0.51	0.11 上昇
	障がいのある人の福祉の充実	0.31	0.27	0.04 低下
	町民の健康づくりの推進	1.38	1.22	0.16 低下
4　子育て・教育・文化分野	子育て支援の充実	0.09	0.62	0.53 上昇
	学校教育の充実	0.11	0.54	0.43 上昇
	生涯学習の推進	1.11	0.41	0.70 低下
	青少年の健全育成	0.17	0.47	0.30 上昇
	スポーツ活動の推進	0.90	1.11	0.21 上昇
	芸術・文化活動の推進	0.45	0.50	0.05 上昇
	読書活動の推進	（○第３位）　1.47	（○第２位）　1.72	0.25 上昇
5　産業分野	商工業・サービス業の振興	（▲第２位）-1.13	-0.47	0.66 上昇
	農林業の振興	-0.57	-0.15	0.42 上昇
	観光の振興	（▲第３位）-1.09	（▲第３位）-0.76	0.33 上昇
6　都市基盤分野	道路網の充実	（▲第１位）-1.21	（▲第１位）-1.27	-
	交通網の充実		（▲第２位）-0.78	-
	都市機能の立地誘導・集約	-0.79	-0.22	0.57 上昇
	上・下水道の整備	（○第２位）　1.71	（○第３位）　1.67	0.04 低下
7　生活環境分野	循環型社会形成の推進	（○第１位）　2.58	（○第１位）　2.86	0.28 上昇
	自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備	1.29	1.29	同点
	生活環境の保全・向上	-	-0.19	-
	文化財の保存と活用	1.26	1.43	0.17 上昇
8　共生・行財政分野	人権尊重の推進	0.45	0.53	-
	男女共同参画の推進		0.46	-
	行政経営の推進	-0.23	0.01	0.24 上昇

注１　○は上位３項目、▲は下位３項目。網かけ部分は前回よりも満足度が低下した項目を示している。

注２　前回は、「交通安全・防犯の充実」、「道路・交通網の充実」、「人権尊重・男女共同参画の推進」については１つの項目であったが、今回は、「交通安全の充実」と「防犯の充実」、「道路網の充実」と「交通網の充実」、「人権尊重の推進」と「男女共同参画の推進」の２つにわけて調査した。

【居住地区別の比較】（満足度の上位３位と下位３位）

（単位：評価点）

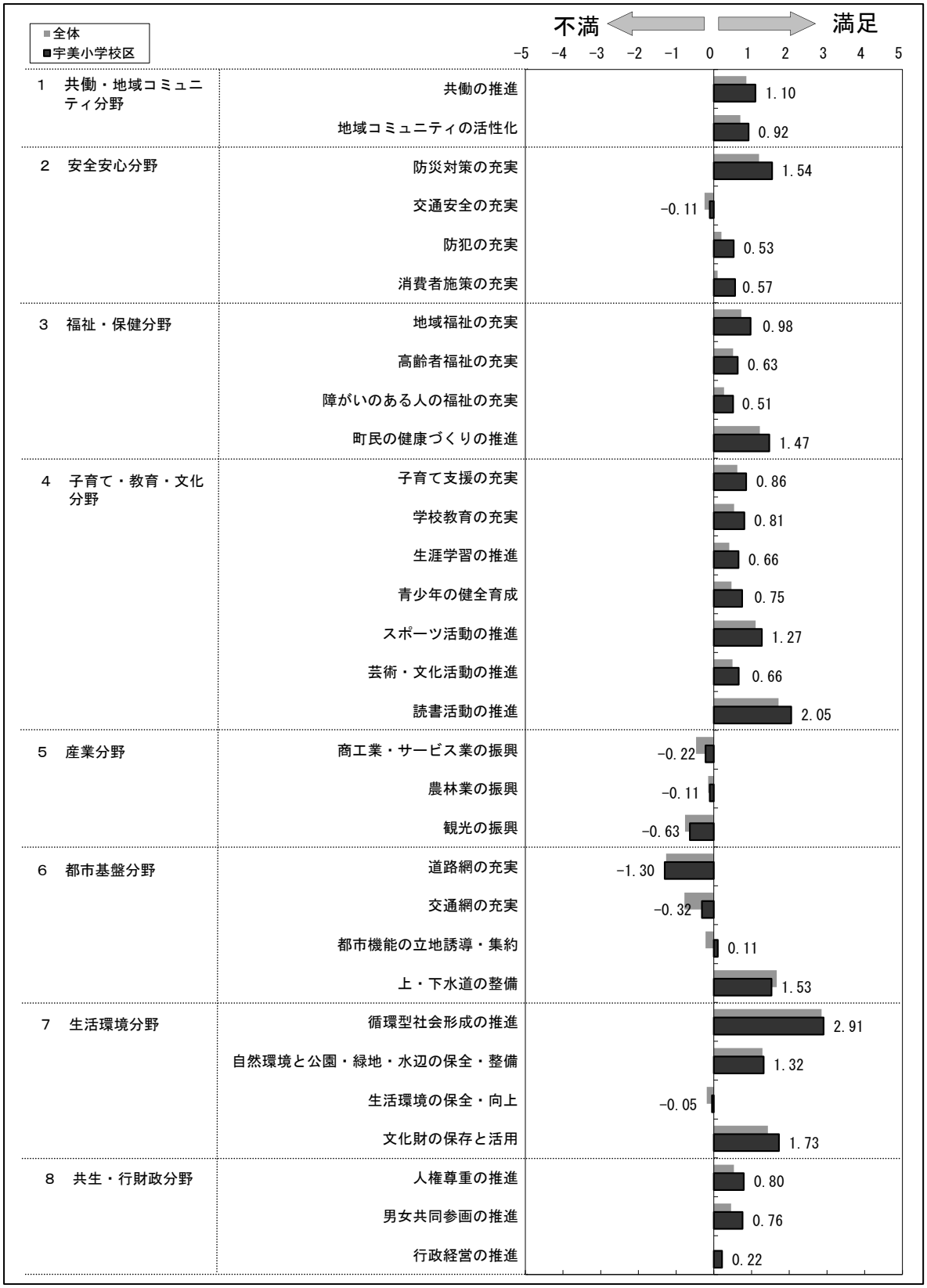
		上位第１位	上位第２位	上位第３位
全体		循環型社会形成の推進 2.86	読書活動の推進 1.72	上・下水道の整備 1.67
居住地区	宇美小学校区	循環型社会形成の推進 2.91	読書活動の推進 2.05	文化財の保存と活用 1.73
	宇美東小学校区	循環型社会形成の推進 2.67	読書活動の推進 1.70	自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備 1.54
	原田小学校区	循環型社会形成の推進 2.67	上・下水道の整備 1.77	読書活動の推進 1.60
	桜原小学校区	循環型社会形成の推進 3.15	上・下水道の整備 2.19	読書活動の推進 1.92
	井野小学校区	循環型社会形成の推進 3.08	上・下水道の整備 1.56	文化財の保存と活用 1.48

		下位第１位	下位第２位	下位第３位
全体		道路網の充実 -1.27	交通網の充実 -0.78	観光の振興 -0.76
居住地区	宇美小学校区	道路網の充実 -1.30	観光の振興 -0.63	交通網の充実 -0.32
	宇美東小学校区	交通網の充実 -1.24	道路網の充実 -1.10	観光の振興 -0.68
	原田小学校区	道路網の充実 -1.52	交通網の充実 -1.25	観光の振興 -0.79
	桜原小学校区	観光の振興 -0.91	道路網の充実 -0.88	交通網の充実 -0.67
	井野小学校区	道路網の充実 -1.42	商工業・サービス業の振興 -1.06	観光の振興 -0.96

図表７　まちの各施策に関する満足度（全体・居住地区）

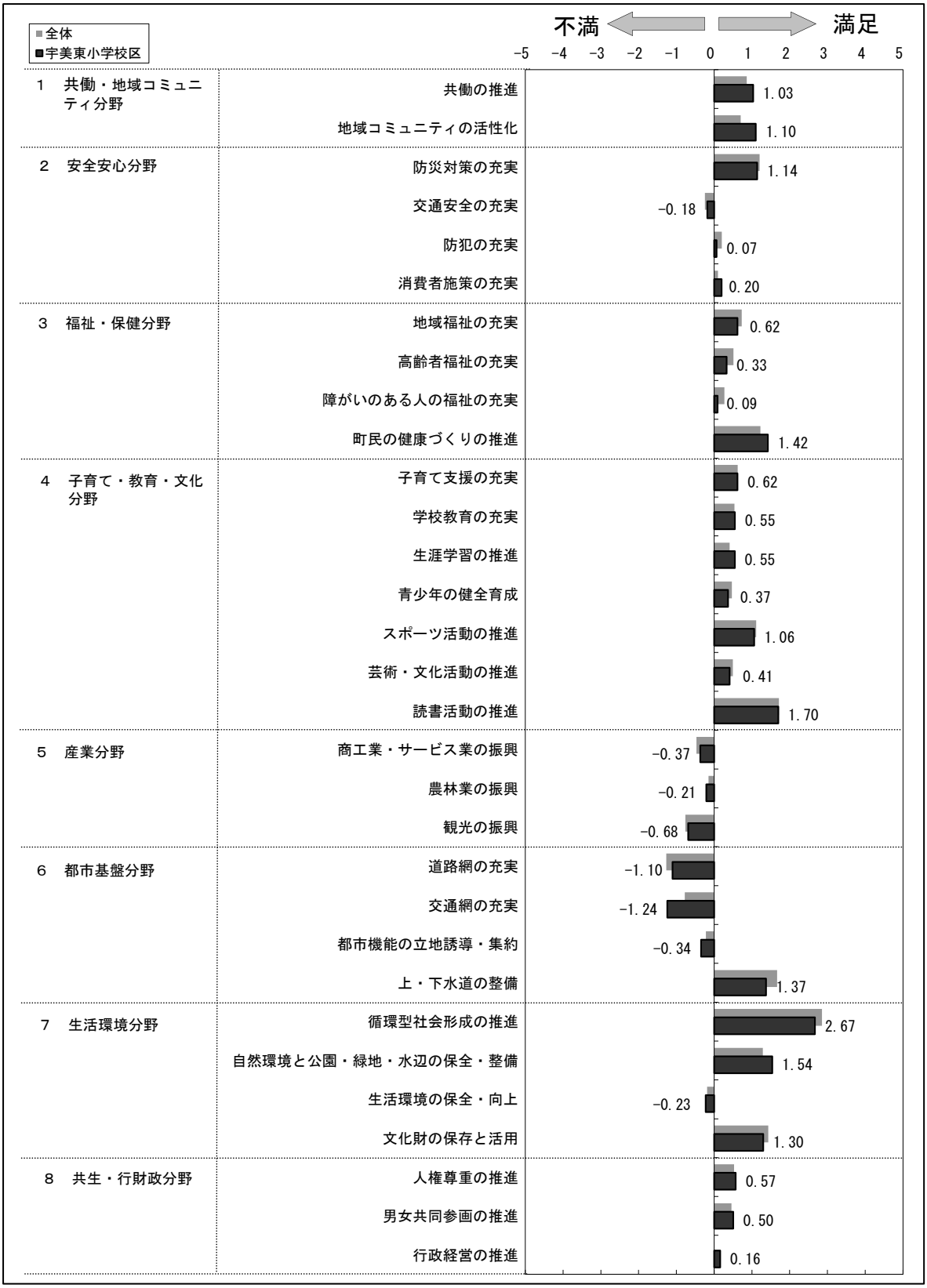
宇美小学校区

（単位：評価点）



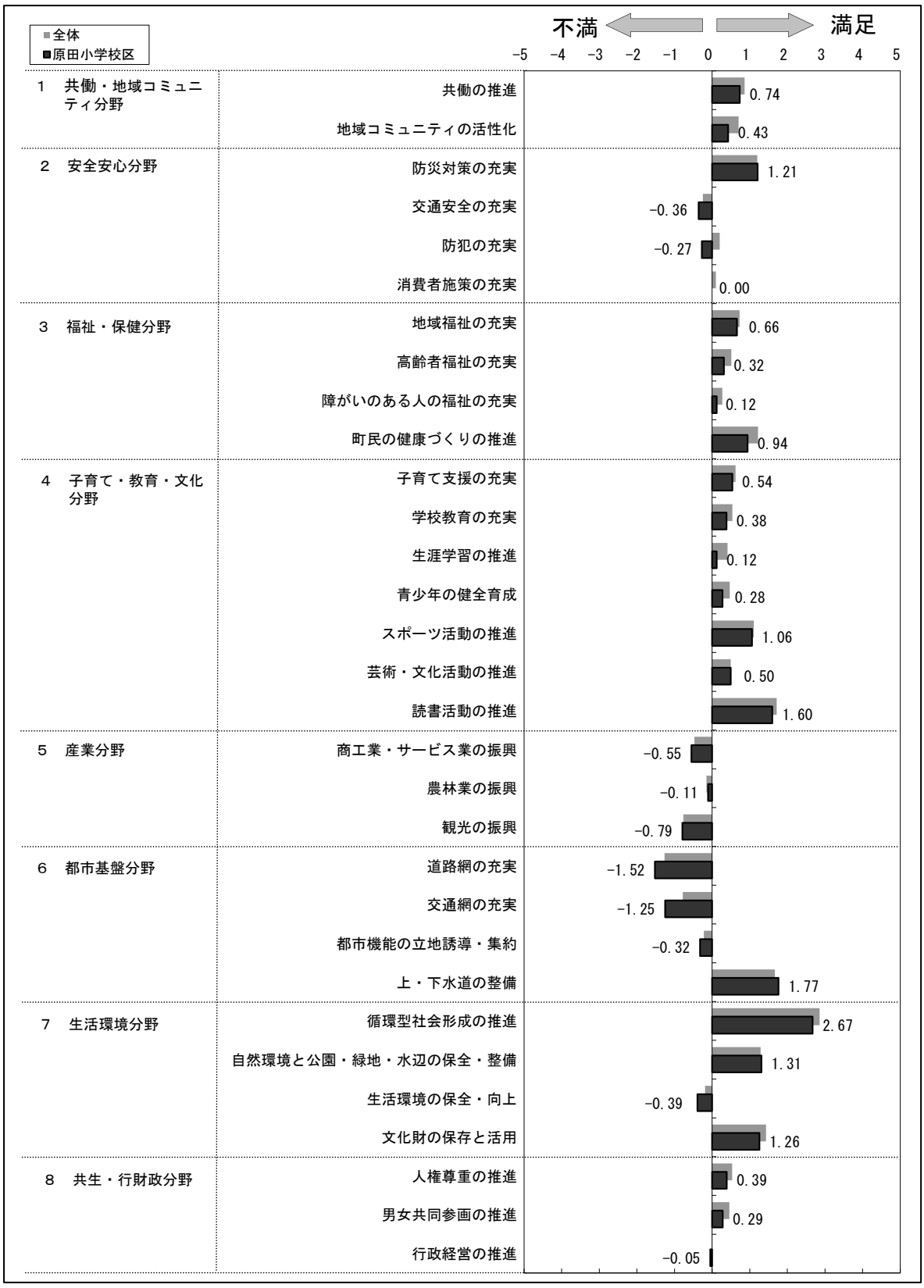
宇美東小学校区

（単位：評価点）



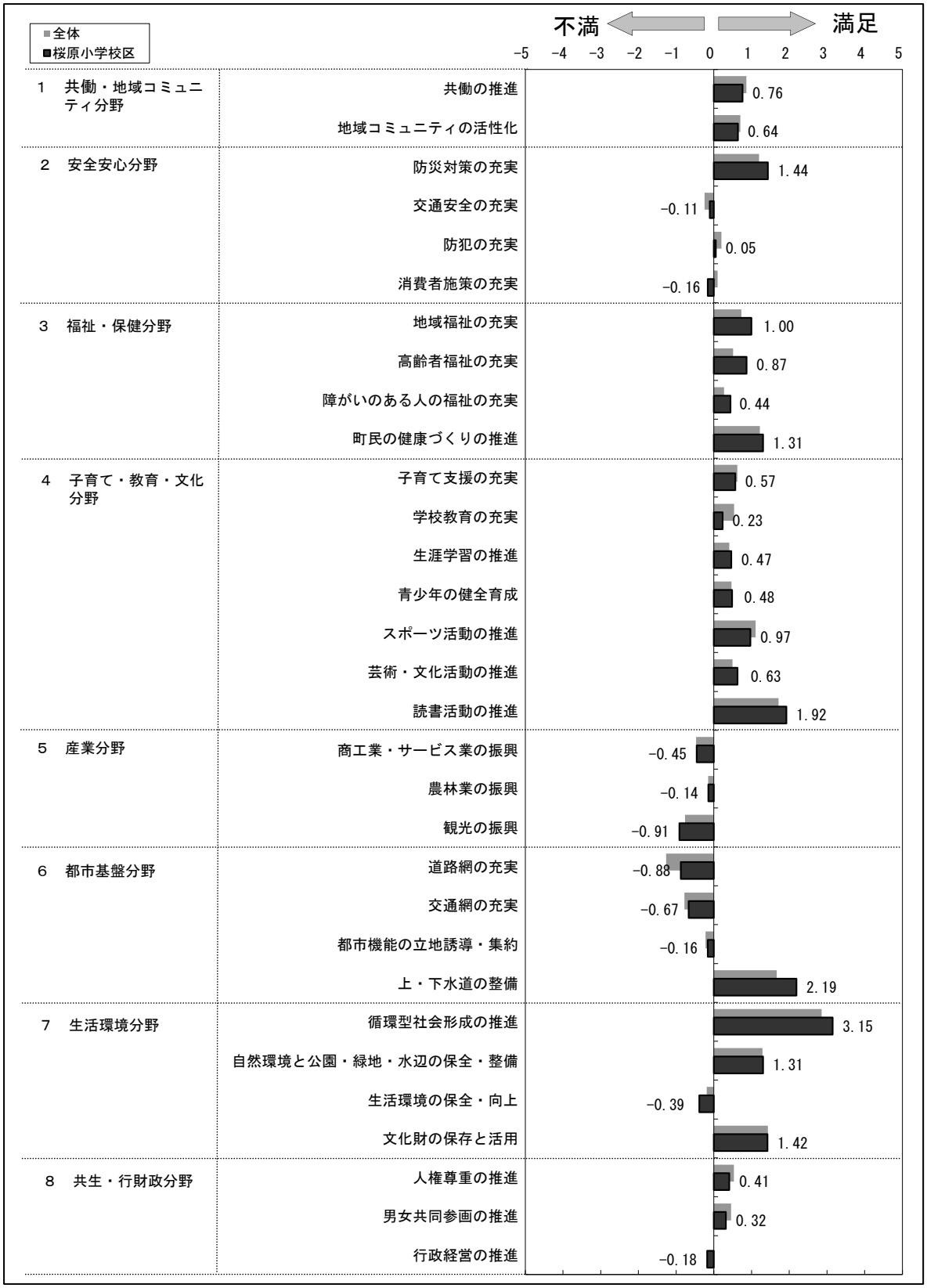
原田小学校区

（単位：評価点）



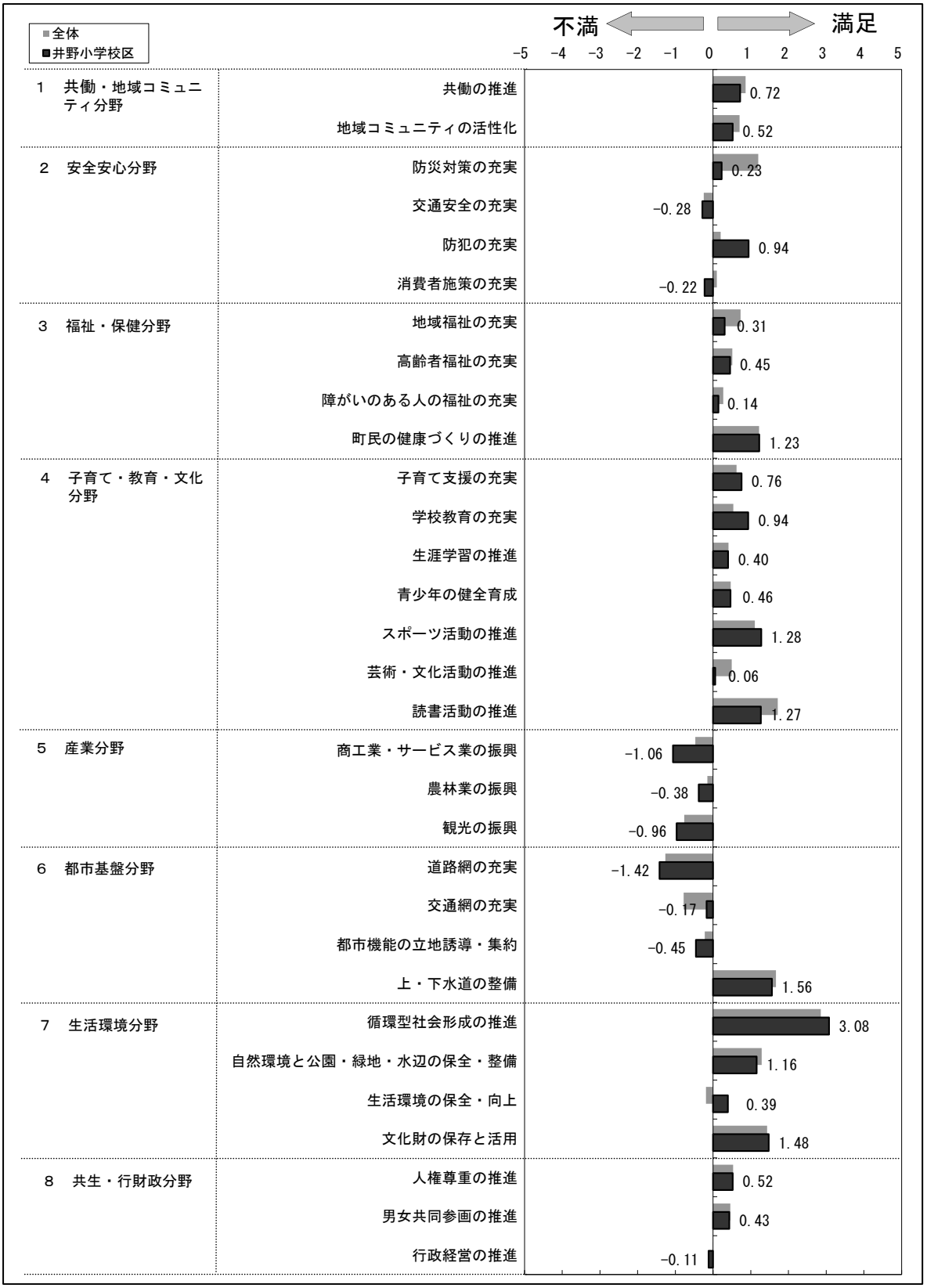
桜原小学校区

（単位：評価点）



井野小学校区

（単位：評価点）



（２）まちの各施策に関する重要度

問５　宇美町では、現在、第６次総合計画後期実践計画に基づき、次のような施策を行っています。
　それぞれの施策について、以下の内容をおたずねしますので、あなたのお考えに最も近いものを、項目ごとにそれぞれ１つ選んで、数字に○印をつけてください。
（２）あなたは、この施策がどの程度重要だと思いますか。【重要度】

▼

● **重要度が最も高い項目は「交通安全の充実」。次いで「交通網の充実」、「防犯の充実」、「循環型社会形成の推進」、「道路網の充実」の順。**

まちの各施策について、町民がどの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ８分野 31 項目について、「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の５段階で評価してもらい、加重平均値による数量化［**次頁参照**］で評価点（重要度：最高点 10 点、中間点 0 点、最低点-10 点）を算出しました。

その結果、重要度が最も高い項目は「交通安全の充実」（5.63 点）で、次いで第２位が「交通網の充実」（5.53 点）、第３位が「防犯の充実」（5.51 点）、続いて「循環型社会形成の推進」（5.20 点）、「道路網の充実」（5.15 点）、「防災対策の充実」（5.02 点）、「町民の健康づくりの推進」（4.73 点）、「上・下水道の整備」（4.57 点）、「子育て支援の充実」（4.54 点）、「自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備」（4.50 点）などの順となっています。

これら上位 10 項目をみると、“事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり”と“道路・交通網の利便性の向上”をはじめ、“きれいで快適な生活環境の整備”、“健康づくり環境や子育て環境の充実”が重視されていることがうかがえます。［**図表８参照**］

前回の調査結果と比較すると、重要度が大幅に上がった項目は「消費者施策の充実」・「青少年の健全育成」（同点 0.38 点上昇）、「自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備」（0.26 点上昇）、「循環型社会形成の推進」（0.21 点上昇）、「学校教育の充実」（0.18 点上昇）などとなっています。

職員の調査結果と比較すると、重要度の上位５項目は、「交通網の充実」と「道路網の充実」は共通してあげられていますが、町民では「交通安全の充実」（職員では第６位）が第１位、「防犯の充実」（職員では第 10 位）が第３位、「循環型社会形成の推進」（職員では第 17 位）が第４位となるなど、まちの各施策に関する重要度については、町民の評価と職員の評価には違いがあります。［**下記【比較】及びＰ25【前回調査との比較】参照**］

【比較】

前回の調査結果	**重要度が高い項目：「道路・交通網の充実」、「交通安全・防犯の充実」、「防災対策の充実」、「循環型社会形成の推進」、「上・下水道の整備」の順。**
職員の調査結果	**重要度が高い項目：「道路網の充実」、「交通網の充実」、「子育て支援の充実」、「防災対策の充実」、「学校教育の充実」の順。**

※加重平均値の算出方法
５段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

評価点＝（「重視している」の回答者数×10 点 ＋ 「やや重視している」の回答者数×５点 ＋ 「どちらともいえない」の回答者数×０点 ＋ 「あまり重視していない」の回答者数×－５点 ＋ 「重視していない」の回答者数×－10 点）÷（「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の回答者数）

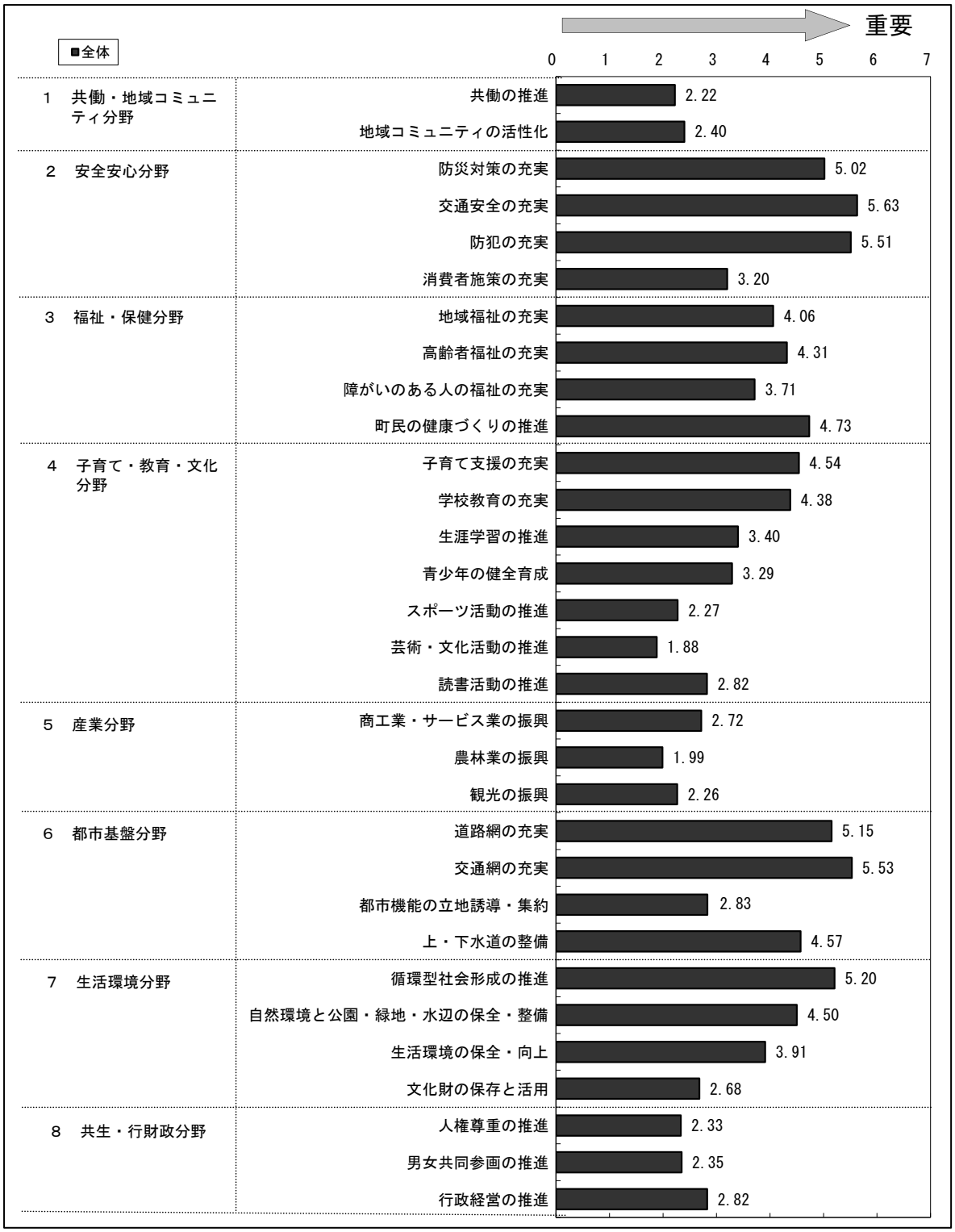
【居住地区別の比較】（重要度の上位５位）

（単位：評価点）

		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
全体		交通安全の充実 5.63	交通網の充実 5.53	防犯の充実 5.51	循環型社会形成の推進 5.20	道路網の充実 5.15
居住地区	宇美小学校区	交通安全の充実 5.76	交通網の充実 5.64	防犯の充実 5.57	道路網の充実 5.54	循環型社会形成の推進 5.14
	宇美東小学校区	交通安全の充実 5.20	交通網の充実 5.19	防犯の充実 5.09	道路網の充実／循環型社会形成の推進 4.79	
	原田小学校区	交通網の充実 5.90	交通安全の充実 5.58	循環型社会形成の推進 5.53	防犯の充実 5.52	道路網の充実 5.18
	桜原小学校区	交通安全の充実 5.99	防犯の充実 5.66	防災対策の充実 5.39	循環型社会形成の推進 5.34	交通網の充実 5.23
	井野小学校区	交通安全の充実 5.76	防犯の充実 5.67	交通網の充実 5.66	循環型社会形成の推進 5.37	道路網の充実 5.29

図表８　まちの各施策に関する重要度（全体）

（単位：評価点）



【前回調査との比較】（全体）

（単位：評価点）

分野	項目	前回の重要度	今回の重要度	比較
1　共働・地域コミュニティ分野	共働の推進	2.56	2.22	0.34 低下
	地域コミュニティの活性化	2.79	2.40	0.39 低下
2　安全安心分野	防災対策の充実	（○第３位）5.13	5.02	0.11 低下
	交通安全の充実	（○第２位）5.50	（○第１位）5.63	－
	防犯の充実		（○第３位）5.51	－
	消費者施策の充実	2.82	3.20	0.38 上昇
3　福祉・保健分野	地域福祉の充実	4.05	4.06	0.01 上昇
	高齢者福祉の充実	4.37	4.31	0.06 低下
	障がいのある人の福祉の充実	4.19	3.71	0.48 低下
	町民の健康づくりの推進	4.82	4.73	0.09 低下
4　子育て・教育・文化分野	子育て支援の充実	4.63	4.54	0.09 低下
	学校教育の充実	4.20	4.38	0.18 上昇
	生涯学習の推進	3.74	3.40	0.34 低下
	青少年の健全育成	2.91	3.29	0.38 上昇
	スポーツ活動の推進	2.73	2.27	0.46 低下
	芸術・文化活動の推進	2.10	1.88	0.22 低下
	読書活動の推進	2.89	2.82	0.07 低下
5　産業分野	商工業・サービス業の振興	2.73	2.72	0.01 低下
	農林業の振興	1.82	1.99	0.17 上昇
	観光の振興	2.36	2.26	0.10 低下
6　都市基盤分野	道路網の充実	（○第１位）5.69	（○第５位）5.15	－
	交通網の充実		（○第２位）5.53	－
	都市機能の立地誘導・集約	3.50	2.83	0.67 低下
	上・下水道の整備	（○第５位）4.87	4.57	0.30 低下
7　生活環境分野	循環型社会形成の推進	（○第４位）4.99	（○第４位）5.20	0.21 上昇
	自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備	4.24	4.50	0.26 上昇
	生活環境の保全・向上	－	3.91	－
	文化財の保存と活用	2.93	2.68	0.25 低下
8　共生・行財政分野	人権尊重の推進	2.61	2.33	－
	男女共同参画の推進		2.35	－
	行政経営の推進	2.71	2.82	0.11 上昇

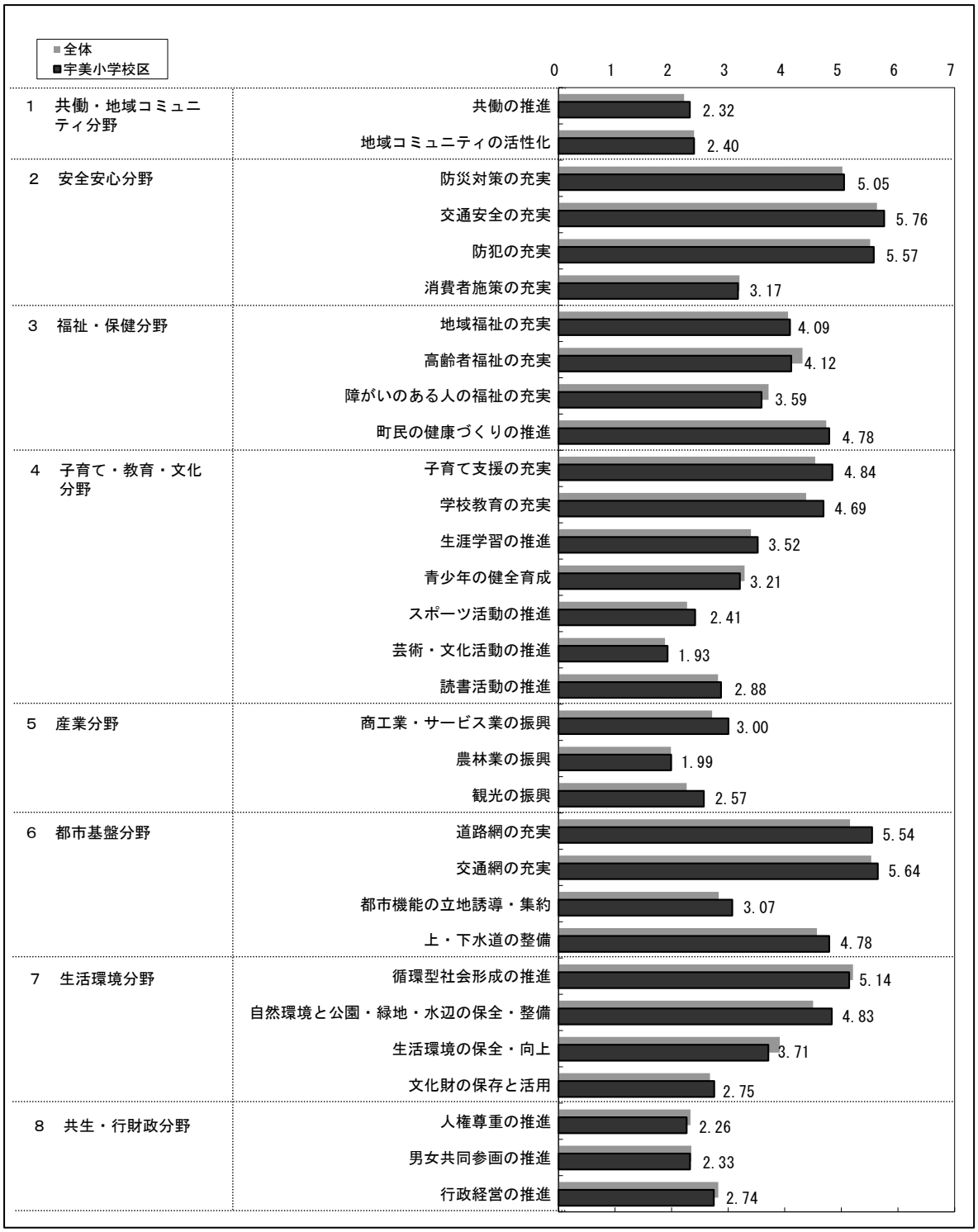
注１　○は上位５項目。網かけ部分は前回よりも重要度が上昇した項目を示している。

注２　前回は、「交通安全・防犯の充実」、「道路・交通網の充実」、「人権尊重・男女共同参画の推進」については１つの項目であったが、今回は、「交通安全の充実」と「防犯の充実」、「道路網の充実」と「交通網の充実」、「人権尊重の推進」と「男女共同参画の推進」の２つにわけて調査した。

図表９　まちの各施策に関する重要度（全体・居住地区）

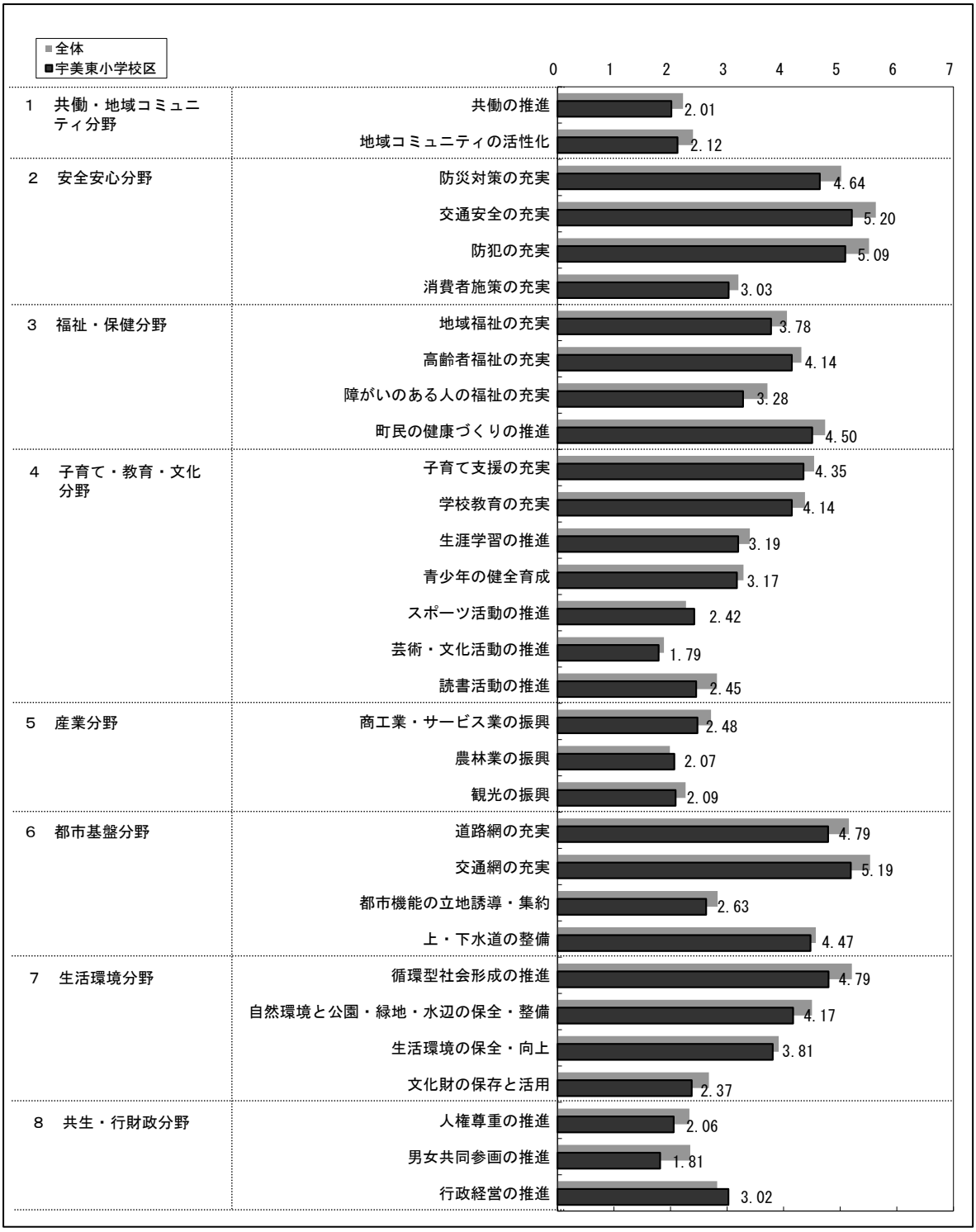
宇美小学校区

（単位：評価点）



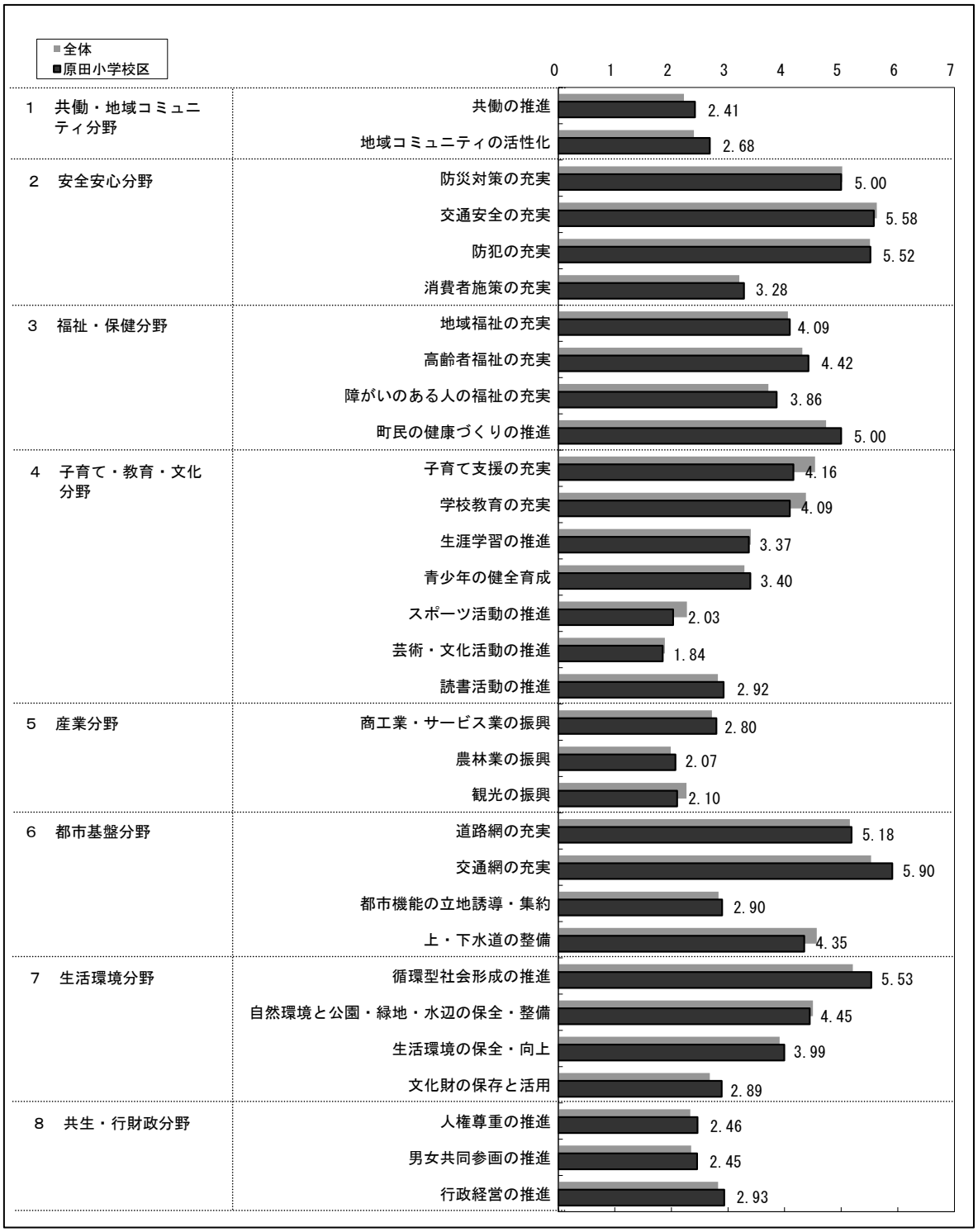
宇美東小学校区

（単位：評価点）



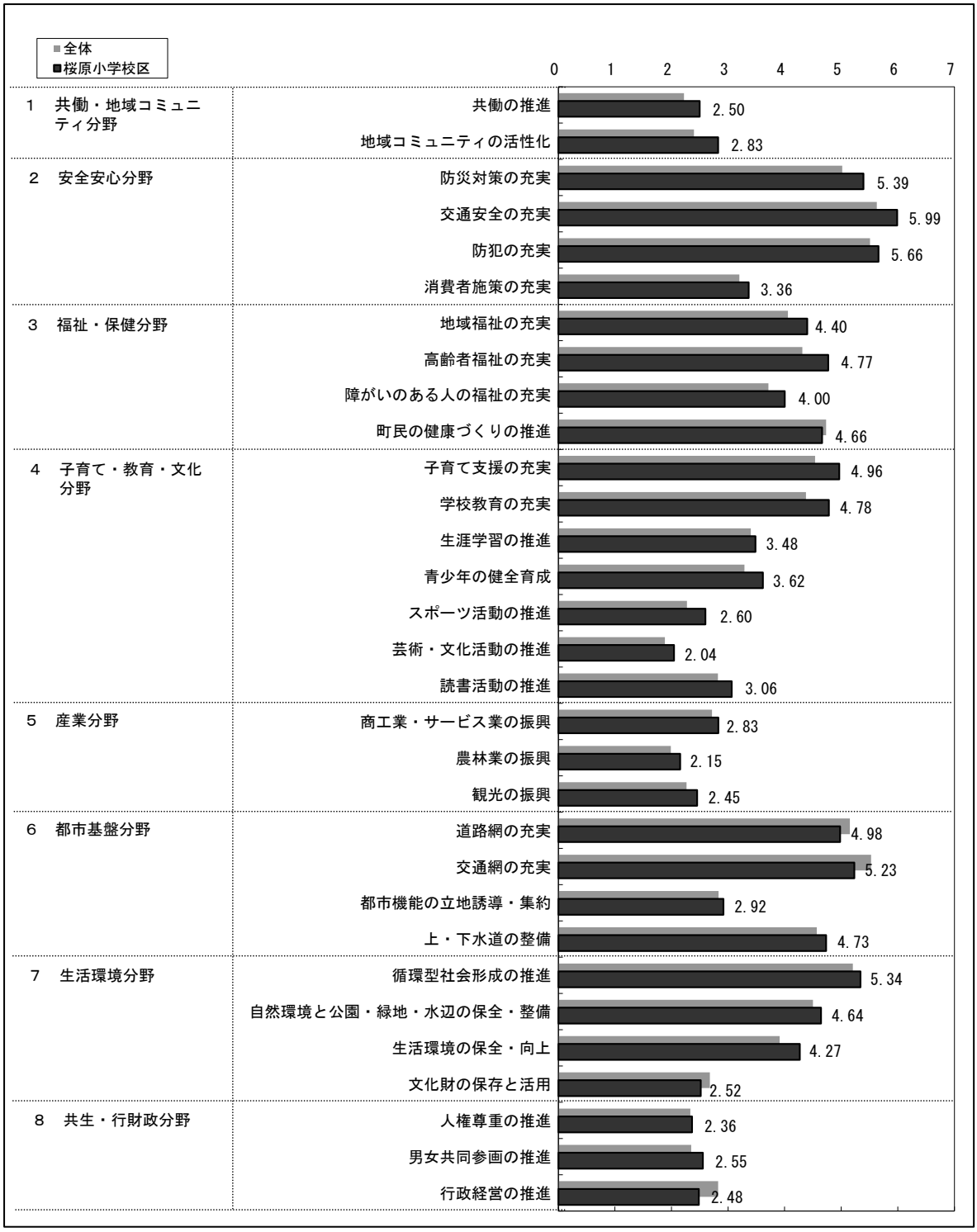
原田小学校区

（単位：評価点）



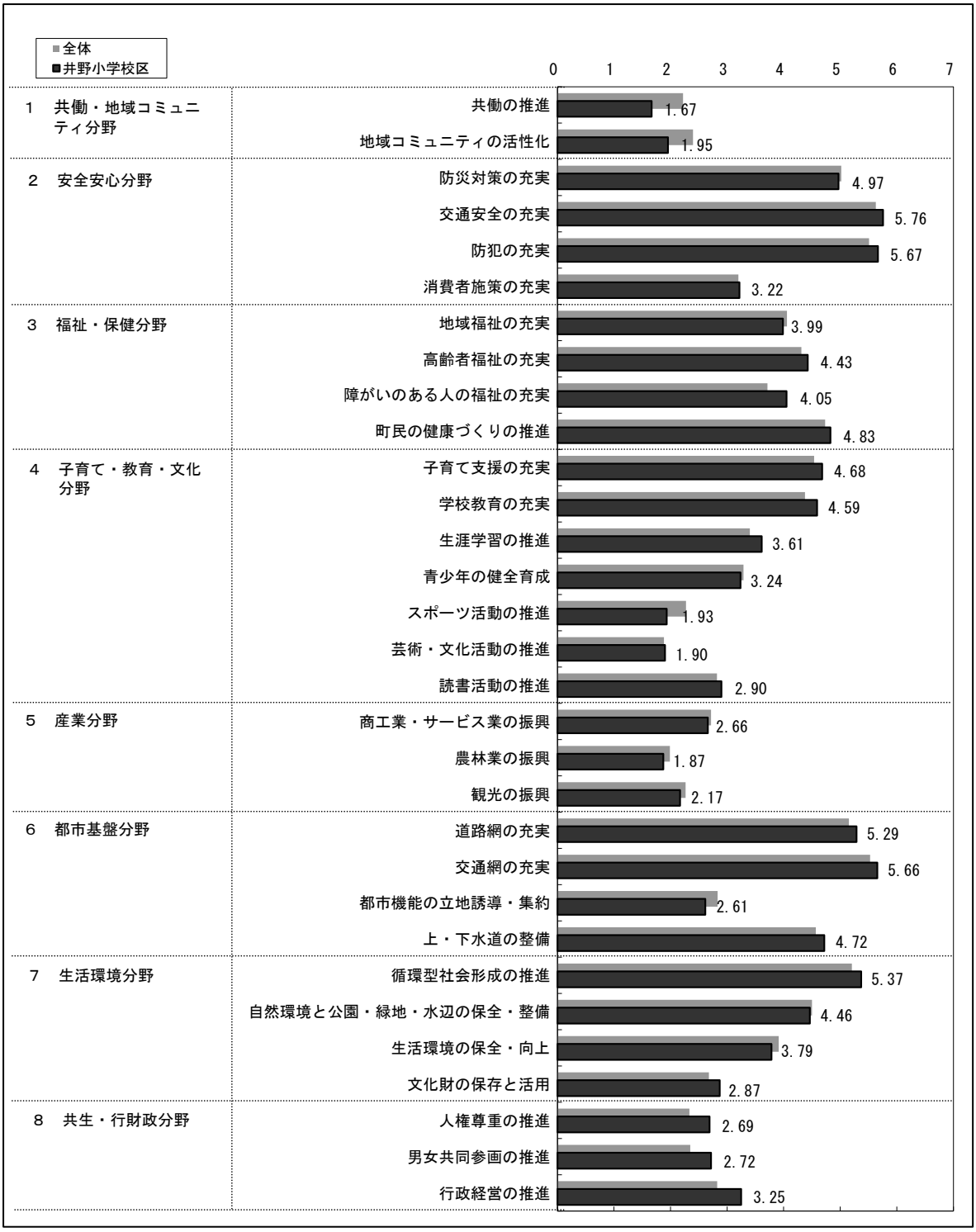
桜原小学校区

（単位：評価点）



井野小学校区

（単位：評価点）



（３）まちの各施策に関する満足度と重要度の相関

● 満足度が低く重要度が高いエリアに位置する主な項目は、「交通網の充実」、「道路網の充実」、「交通安全の充実」、「防犯の充実」。

これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、各施策がどのような位置づけを持つかを検討するための一つの試みとして、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成し、ＡからＤの４つのエリアに分類しました。

Ａのエリアは、満足度が平均値より低く、重要度が平均値より高いエリアであり、ここに位置する施策は、特に取組の推進や改善に対する町民の期待が高い項目と考えられ、従来の施策の取組方向について、さらに改善を検討する必要があると思われる項目です。満足度評価と重要度評価を相関させた分類の結果、このＡのエリアに位置する主な施策は、「交通網の充実」、「道路網の充実」、「交通安全の充実」、「防犯の充実」、「生活環境の保全・向上」などとなっています。［図表 10・11 参照］

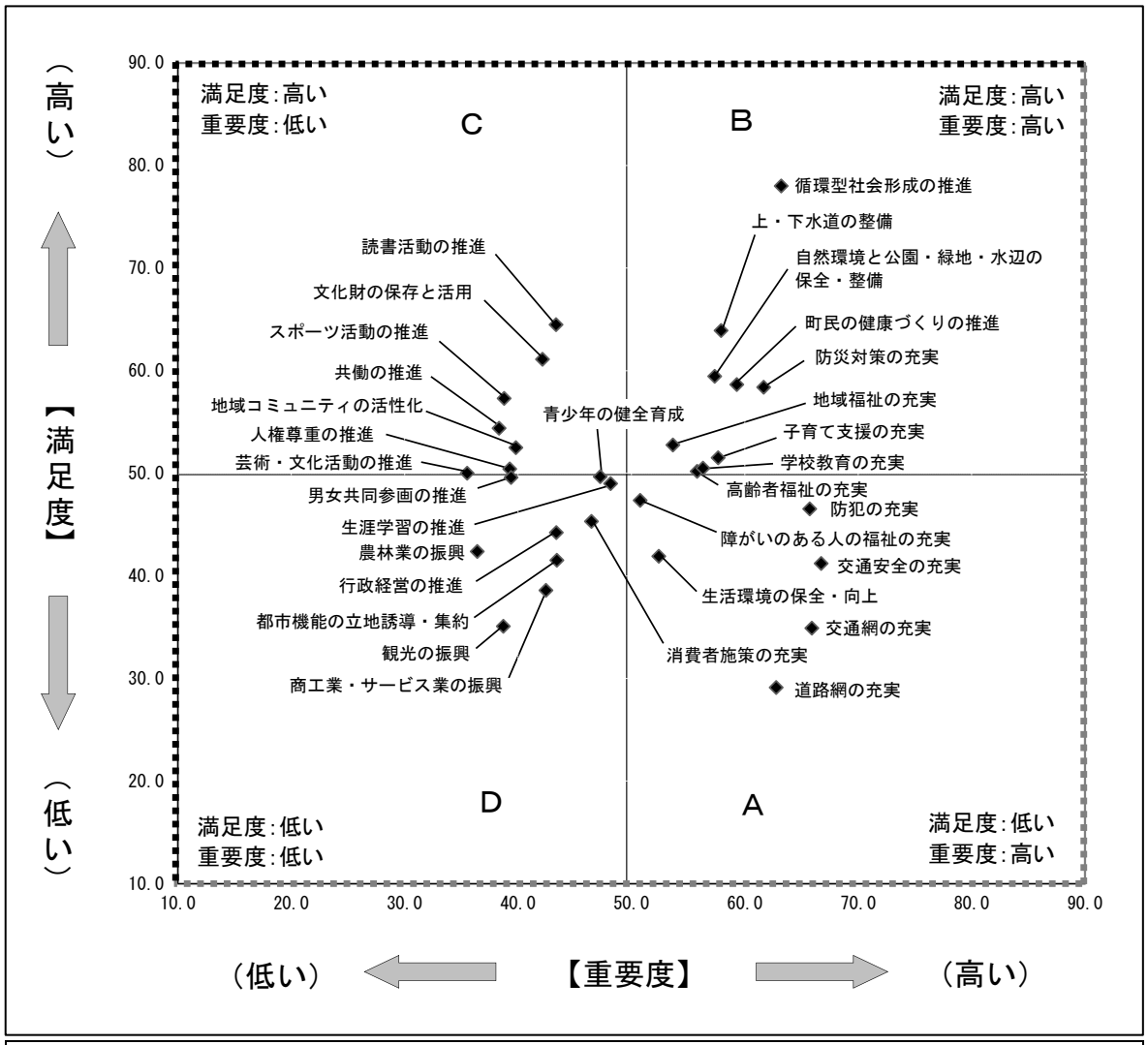
前回の調査結果と比較すると、Ａのエリアの主な項目は同様（前回は、「交通安全・防犯の充実」、「道路・交通網の充実」は１つの項目であった）で、大きな変化はみられません。

職員の調査結果と比較すると、「交通網の充実」と「道路網の充実」が主な項目であることに変わりはありませんが、これら以外をみると、町民では「交通安全の充実」、「防犯の充実」、「生活環境の保全・向上」、職員では「商工業・サービス業の振興」、「観光の振興」、「交通安全の充実」となっています。［下記【比較】参照］

【比較】

前回の調査結果	Ａのエリアの項目：「道路・交通網の充実」、「交通安全・防犯の充実」、「子育て支援の充実」、「学校教育の充実」など。
職員の調査結果	Ａのエリアの項目：「道路網の充実」、「交通網の充実」、「商工業・サービス業の振興」、「観光の振興」など。

図表 10　まちの各施策に関する満足度と重要度の相関



A　満足度が平均値より低く、重要度が平均値より高い項目

グラフ右下に位置する項目は、施策の必要性が十分認識され、特に取組の推進や改善に対する町民の期待が高い項目と考えられ、従来の施策の取組方向について、さらに改善を検討する必要があると思われる。

B　満足度、重要度ともに平均値より高い項目

グラフ右上に位置する項目は、施策の必要性が十分認識され、その取組にも満足されている項目と考えられ、今後も現在の水準を維持・向上させるため、着実に取組を推進する必要があると思われる。

C　満足度が平均値より高く、重要度が平均値より低い項目

グラフ左上に位置する項目は、他の施策と比較してその必要性の認識は低いものの、取組には満足されている項目と考えられ、現状どおりの着実な取組の推進とともに、施策の重要性についてさらに認知してもらえる取組を進める必要があると思われる。

D　満足度、重要度ともに平均値より低い項目

グラフ左下に位置する項目は、他の施策と比較してその必要性の認識が低い上、現状の取組には満足されていない項目と考えられ、施策の重要性をさらに認知してもらえるような取組とともに、従来の施策の取組方向の改善を検討する必要があると思われる。

図表 11　まちの各施策に関する満足度と重要度の相関（各エリアの項目）

エリア	項　目
A	◆交通網の充実 ◆道路網の充実 ◆交通安全の充実 ◆防犯の充実 ◆生活環境の保全・向上 ◆障がいのある人の福祉の充実
B	◆循環型社会形成の推進 ◆上・下水道の整備 ◆防災対策の充実 ◆町民の健康づくりの推進 ◆自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備 ◆子育て支援の充実 ◆学校教育の充実 ◆高齢者福祉の充実 ◆地域福祉の充実
C	◆読書活動の推進 ◆スポーツ活動の推進 ◆文化財の保存と活用 ◆共働の推進 ◆芸術・文化活動の推進 ◆地域コミュニティの活性化 ◆人権尊重の推進
D	◆観光の振興 ◆農林業の振興 ◆商工業・サービス業の振興 ◆都市機能の立地誘導・集約 ◆行政経営の推進 ◆男女共同参画の推進 ◆消費者施策の充実 ◆青少年の健全育成 ◆生涯学習の推進

（４）今後のまちづくりの特色

問６　あなたは、今後のまちづくりにおいて、宇美町をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか。【複数回答】

▼

●　「安全・安心のまち」が第１位。次いで「健康・福祉のまち」、「子育て・教育のまち」、「快適住環境のまち」の順。

今後、宇美町をどのような特色のあるまちにすべきかについては、「安全・安心のまち」（60.1%）が第１位、次いで「健康・福祉のまち」（45.9%）が第２位、「子育て・教育のまち」（34.7%）が第３位、ほぼ同率で「快適住環境のまち」（33.9%）が第４位で、これらは他を引き離して代表的な回答となっており、問５の「まちの各施策に関する重要度」の結果を裏づけるように、“事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり”が強く求められているほか、“保健・医療・福祉の充実”や“子育て環境・教育環境の充実”、“きれいで快適な生活環境の整備”が望まれていることがうかがえます。**［図表 12 参照］**

中学生の調査結果と比較すると、「安全・安心のまち」が第１位であることに変わりはありませんが、第２位をみると、町民では「健康・福祉のまち」（中学生では第９位）、中学生では「共働のまち」（町民では第６位）となっており、“事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり”に次いで、町民では“保健・医療・福祉の充実”、中学生では“町民と行政との共働のまちづくり”が望まれています。

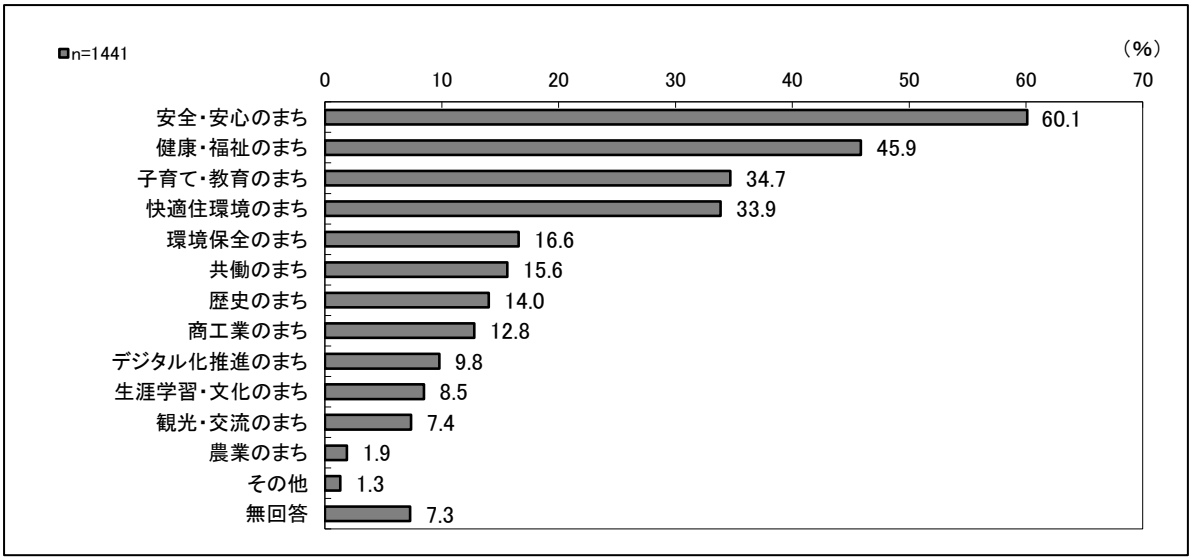
職員の調査結果と比較すると、町民では「安全・安心のまち」（職員では第２位）と「健康・福祉のまち」（職員では第６位）が上位を占めていますが、職員では「子育て・教育のまち」（町民では第３位）が他を引き離して第１位となっています。**［下記【比較】参照］**

属性別でみると、ほとんどの属性で町全体と同様に「安全・安心のまち」が第１位、「健康・福祉のまち」が第２位となっていますが、30 代では「子育て・教育のまち」（63.3%）が第１位、10・20 代と 40 代でも「子育て・教育のまち」（45.3%・41.3%）が第２位となっており、これら子育て世代では、“子育て環境・教育環境の充実”が最も重視されていることがうかがえます。**［図表 13 参照］**

【比較】

中学生の調査結果	**「安全・安心のまち」、「共働のまち」、「快適住環境のまち」、「環境保全のまち」の順。**
職員の調査結果	**「子育て・教育のまち」、「安全・安心のまち」、「商工業のまち」、「快適住環境のまち」の順。**

図表 12　今後のまちづくりの特色（全体／複数回答）



図表 13　今後のまちづくりの特色

（全体・性別・年齢・居住地区－上位３位／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		安全・安心のまち 60.1	健康・福祉のまち 45.9	子育て・教育のまち 34.7
性別	男性	安全・安心のまち 60.7	健康・福祉のまち 44.7	快適住環境のまち 35.0
	女性	安全・安心のまち 61.0	健康・福祉のまち 47.2	子育て・教育のまち 35.5
年齢	10・20代	安全・安心のまち 48.7	子育て・教育のまち 45.3	健康・福祉のまち 28.2
	30代	子育て・教育のまち 63.3	安全・安心のまち 53.6	健康・福祉のまち／快適住環境のまち 38.6
	40代	安全・安心のまち 58.7	子育て・教育のまち 41.3	健康・福祉のまち 38.3
	50代	安全・安心のまち 53.4	健康・福祉のまち 49.0	快適住環境のまち 35.1
	60代	安全・安心のまち 65.5	健康・福祉のまち 55.6	快適住環境のまち 37.8
	70歳以上	安全・安心のまち 68.1	健康・福祉のまち 47.6	快適住環境のまち 30.4
居住地区	宇美小学校区	安全・安心のまち 58.8	健康・福祉のまち 42.9	子育て・教育のまち 38.8
	宇美東小学校区	安全・安心のまち 62.2	健康・福祉のまち 44.3	快適住環境のまち 33.9
	原田小学校区	安全・安心のまち 58.6	健康・福祉のまち 47.5	子育て・教育のまち 35.4
	桜原小学校区	安全・安心のまち 62.8	健康・福祉のまち 46.6	子育て・教育のまち 33.9
	井野小学校区	安全・安心のまち 59.9	健康・福祉のまち 48.9	快適住環境のまち 39.6

３　日頃の行動や考えなどについて

（１）宇美町は安全に暮らせるまちだと思うか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

①あなたは、宇美町は安全に暮らせるまちだと思いますか。

▼

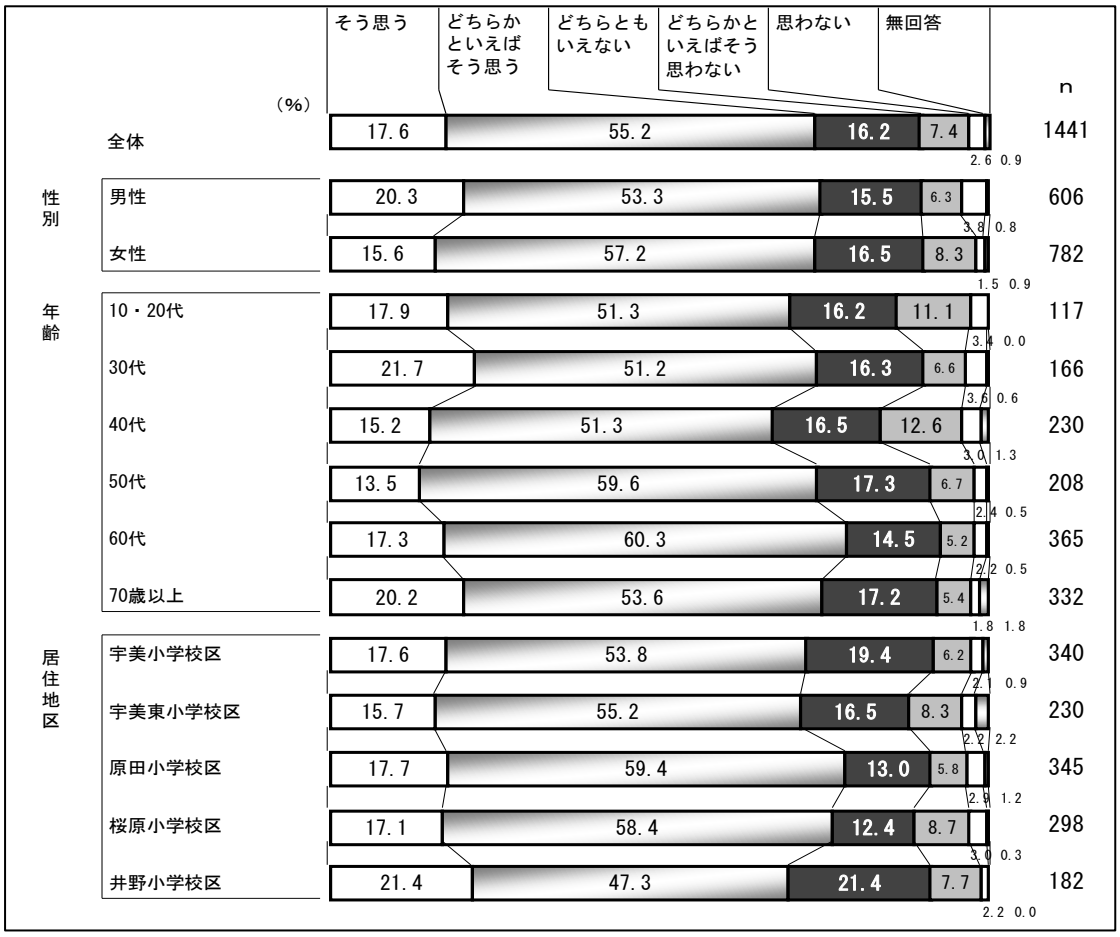
● “そう思う”が 72.9%、“そう思わない”が 10.1%。

宇美町は安全に暮らせるまちだと思うかについては、“そう思う”という人（「そう思う」17.6%と「どちらかといえばそう思う」55.2%の合計）が 72.9%となっています。これに対し、“そう思わない”という人（「どちらかといえばそう思わない」7.4%と「思わない」2.6%の合計）は 10.1%で、多くの町民が宇美町は安全に暮らせるまちだと思っていることがうかがえます。

属性別で“そう思う”という率をみると、性別では、大きな違いはみられず、年齢別では、60 代（77.5%）で８割弱と高く、40 代と 10・20 代（66.5%・69.2%）で７割に満たず低くなっています。

居住地区別では、原田小学校区と桜原小学校区（77.1%・75.5%）で高くなっています。[図表 14 参照]

図表 14　宇美町は安全に暮らせるまちだと思うか（全体・性別・年齢・居住地区）



（２）災害時の避難路・避難場所を知っているか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

②あなたは、災害時の避難路・避難場所を知っていますか。

▼

● 災害時の避難路・避難場所を知っている人は 83.1%。

災害時の避難路・避難場所を知っているかについては、「知っている」と答えた人が 83.1%、「知らない」と答えた人が 16.1%となっています。[図表 15 参照]

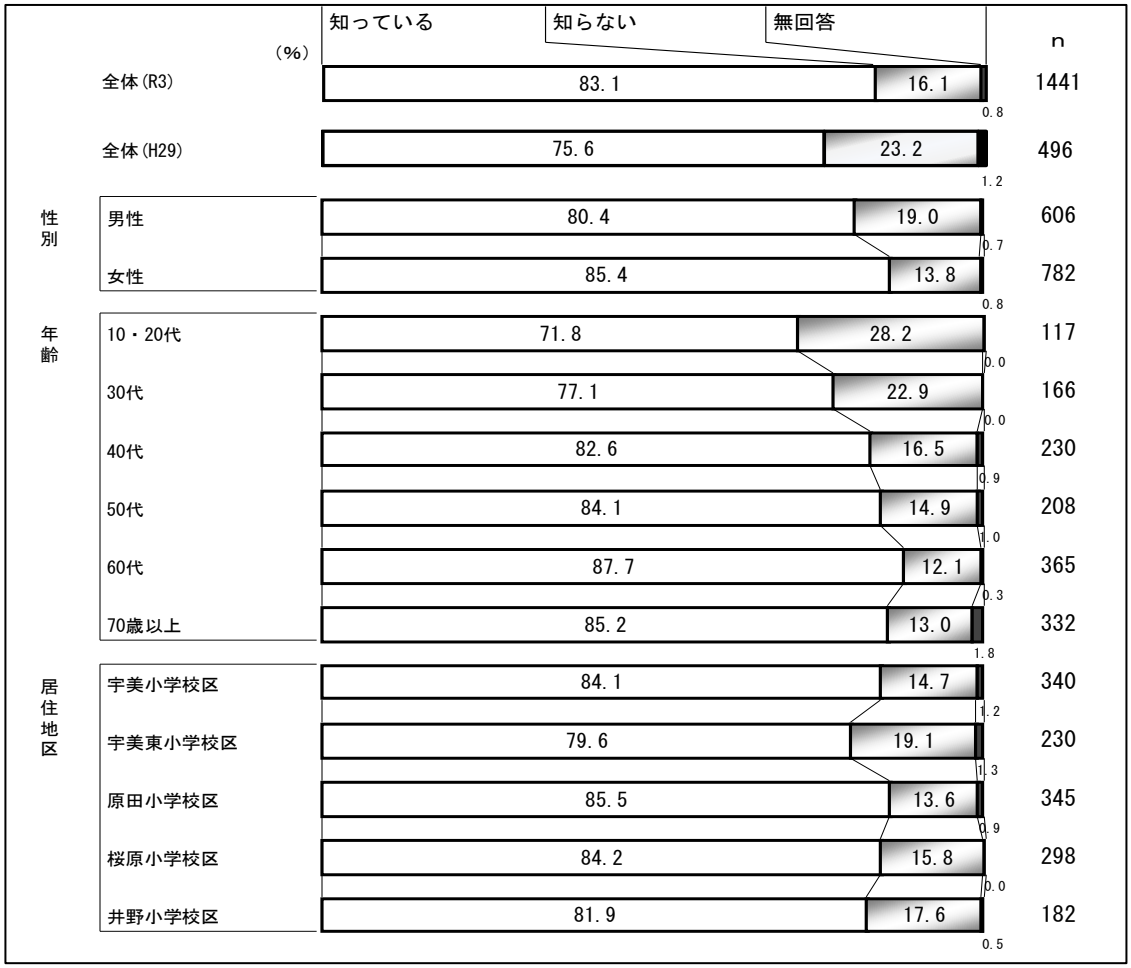
前回の調査結果と比較すると、「知っている」という率が約８ポイント上昇しています。[下記【比較】参照]

属性別で「知っている」という率をみると、性別では、女性(85.4%)が男性(80.4%)を５ポイント上回っており、年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、60 代で 87.７%と高くなっています。[図表 15 参照]

【比較】

前回の調査結果　「知っている」が 75.6%、「知らない」が 23.2%。

図表 15　災害時の避難路・避難場所を知っているか（全体・性別・年齢・居住地区）



（３）ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがあるか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
③あなたは、あなたは、宇美町のハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがありますか。

▼

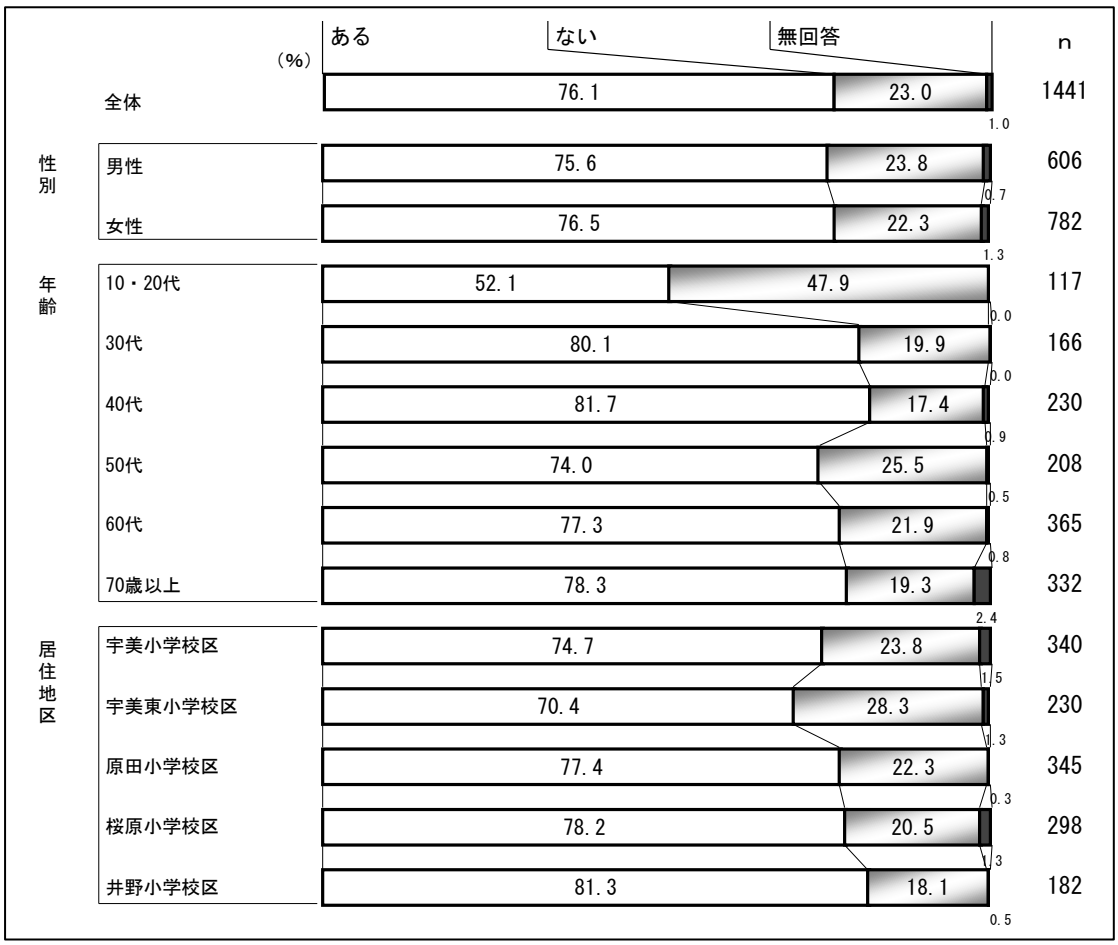
● ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがある人は 76.1%。

ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがあるかについては、「ある」と答えた人が 76.1%、「ない」と答えた人が 23.0%となっています。

属性別で「ある」という率をみると、性別では、ほとんど違いはみられず、年齢別では、40 代（81.7%）と 30 代（80.1%）で高く、10・20 代（52.1%）で低くなっています。

居住地区別では、井野小学校区（81.3%）で高く、宇美東小学校区（70.4%）で低くなっています。[図表 16 参照]

図表 16　ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがあるか
（全体・性別・年齢・居住地区）



（４）健康増進のための取組をしているか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
④あなたは、日頃、健康増進のための取組（食生活の改善や運動など）をしていますか。

▼

● 健康増進のための取組をしている人は 62.2%。

健康増進のための取組をしているかについては、「している」と答えた人が 62.2%、「していない」と答えた人が 37.3%となっています。[図表 17 参照]

前回の調査結果と比較すると、「している」という率が約７ポイント上昇し、健康増進のための取組をしている人が増えていることがうかがえます。[下記【比較】参照]

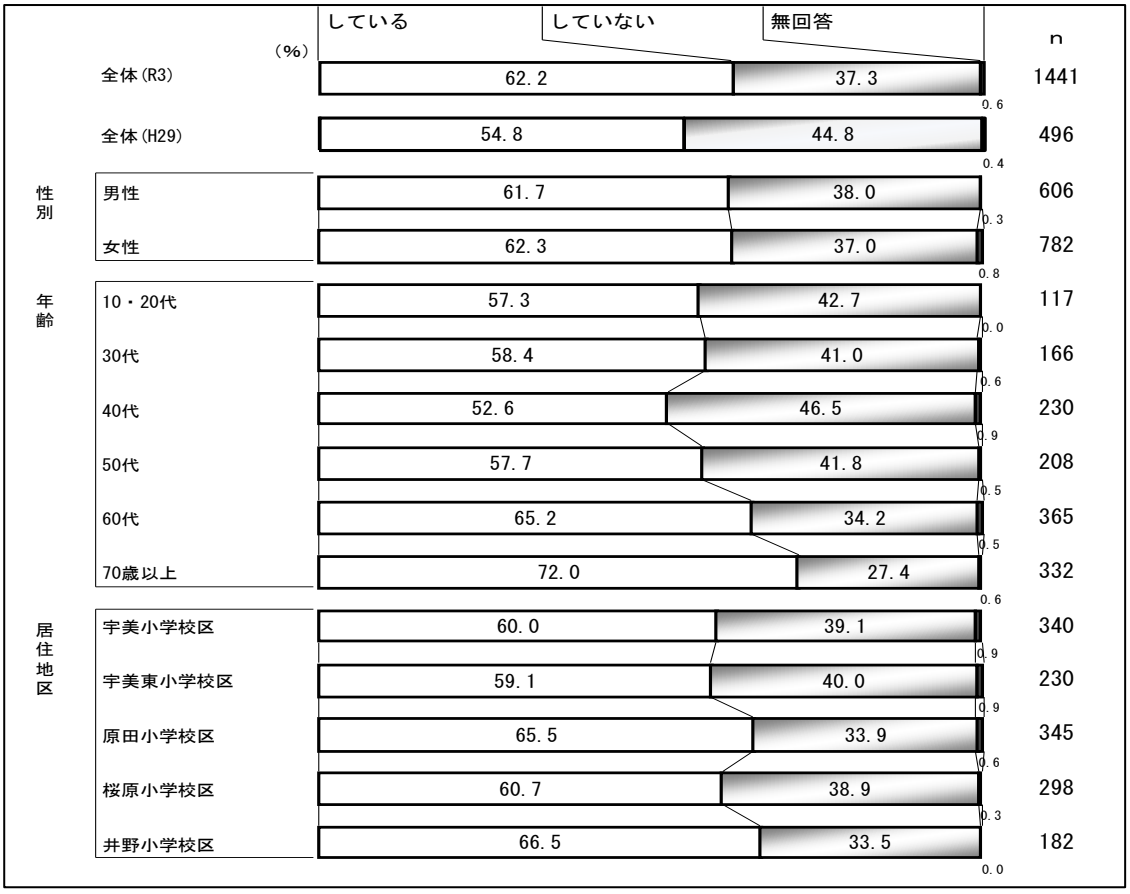
属性別で「している」という率をみると、性別では、ほとんど違いはみられず、年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて上昇し、70 歳以上（72.0%）で高く、40 代（52.6%）で低くなっています。

居住地区別では、井野小学校区（66.5%）と原田小学校区（65.5%）で高く、宇美東小学校区（59.1%）と宇美小学校区（60.0%）、桜原小学校区（60.7%）で低くなっています。[図表 17 参照]

【比較】

前回の調査結果　「している」が 54.8%、「していない」が 44.8%。

図表 17　健康増進のための取組をしているか（全体・性別・年齢・居住地区）



（５）高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っているか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑤あなたは、宇美町が「高血圧ゼロのまち」に取り組んでいることを知っていますか。

▼

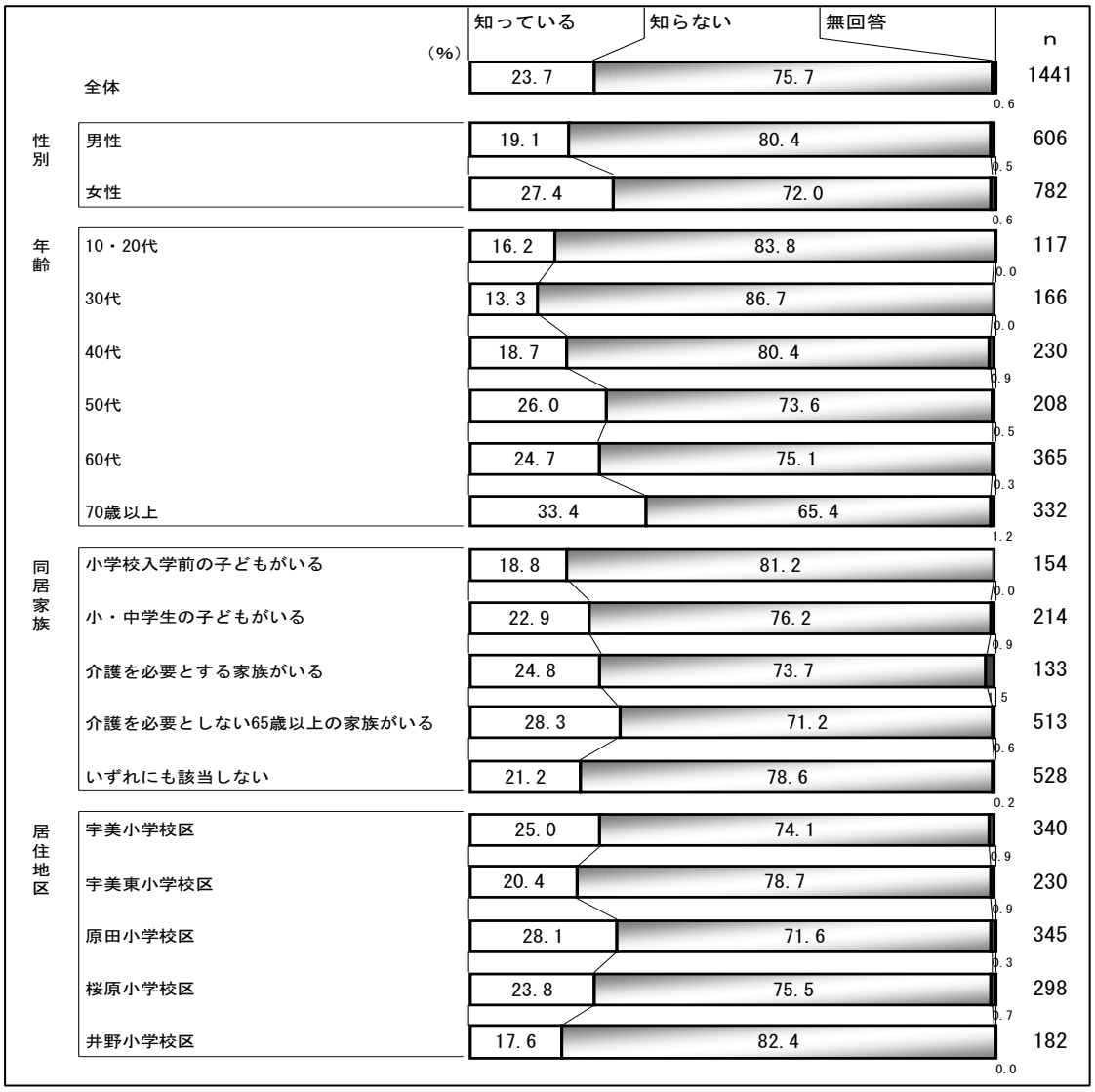
●　高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っている人は 23.7%。

高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っているかについては、「知っている」と答えた人が 23.7%、「知らない」と答えた人が 75.7%となっています。

属性別で「知っている」という率をみると、性別では、女性（27.4%）が男性（19.1%）を約８ポイント上回っており、年齢別では、70 歳以上（33.4%）で高く、30 代（13.3%）で低くなっています。

居住地区別では、原田小学校区（28.1%）で高く、井野小学校区（17.6%）で低くなっています。[図表 18 参照]

図表 18　高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っているか
（全体・性別・年齢・同居家族・居住地区）



（６）安心して子どもを産み育てることができると思うか

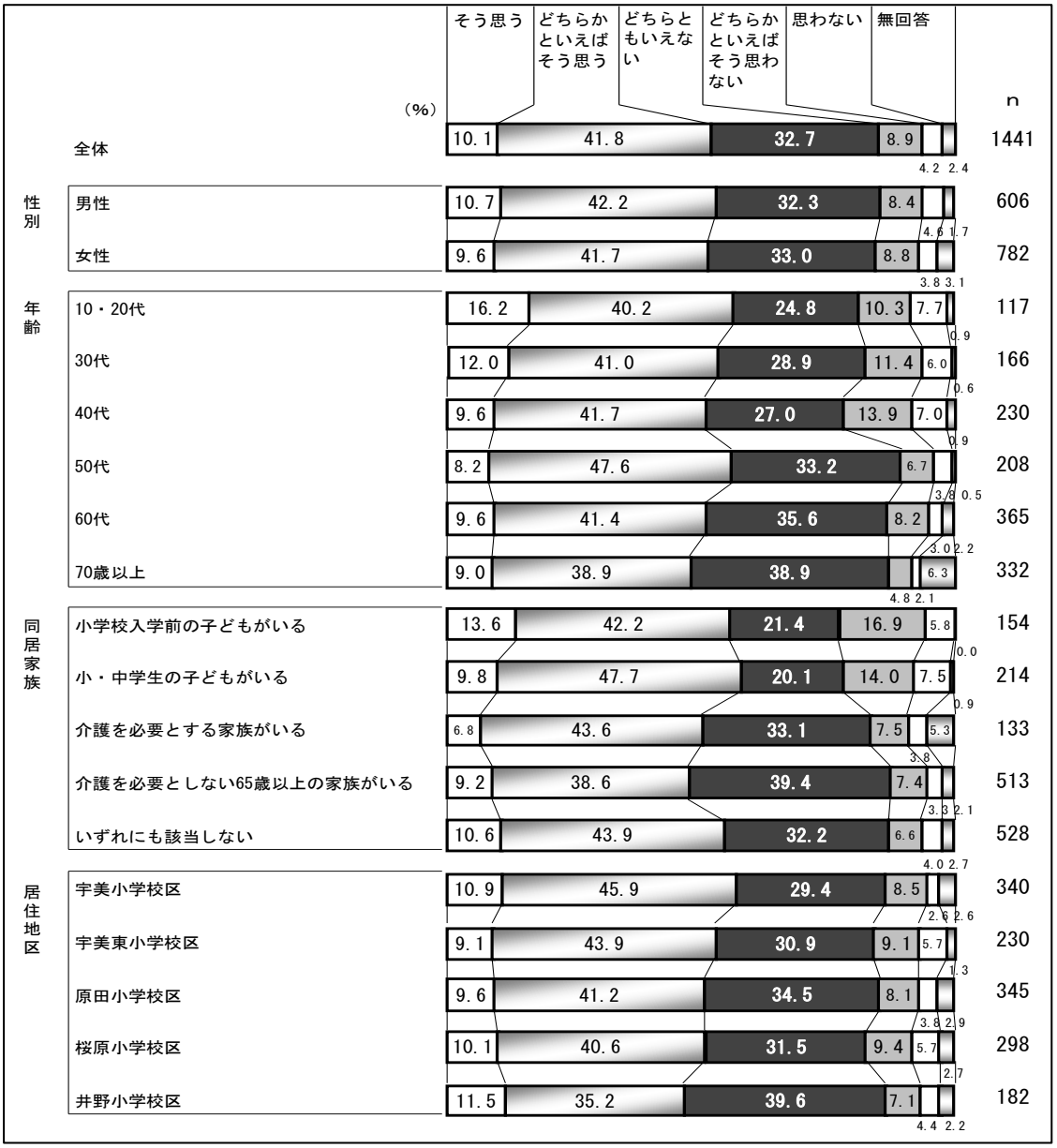
問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑥あなたは、宇美町は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思いますか。

▼

● “そう思う”が 51.8%、“そう思わない”が 13.1%。

安心して子どもを産み育てることができるまちかについては、“そう思う”という人（「そう思う」10.1%と「どちらかといえばそう思う」41.8%との合計）が 51.8%となっています。これに対し、“そう思わない”という人（「どちらかといえばそう思わない」8.9%と「思わない」4.2%の合計）は 13.1%となっています。[図表 19 参照]

図表 19　安心して子どもを産み育てることができると思うか
（全体・性別・年齢・同居家族・居住地区）



（７）この１年間に生涯学習活動をしたか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑦あなたは、この１年間に、生涯学習活動（趣味や文化・スポーツ活動等）をしましたか。

▼

● この１年間に生涯学習活動を“した”人は 40.0%、ほとんどしなかった人は 58.5%。

この１年間に生涯学習活動をしたかについては、“した”という人（「ほぼ毎日した」4.4%、「週に数回程度した」12.9%、「月に数回程度した」11.8%、「年に数回程度した」11.0%の合計）が 40.0%となっています。これに対し、「ほとんどしなかった」という人は 58.5%となっています。［図表 20 参照］

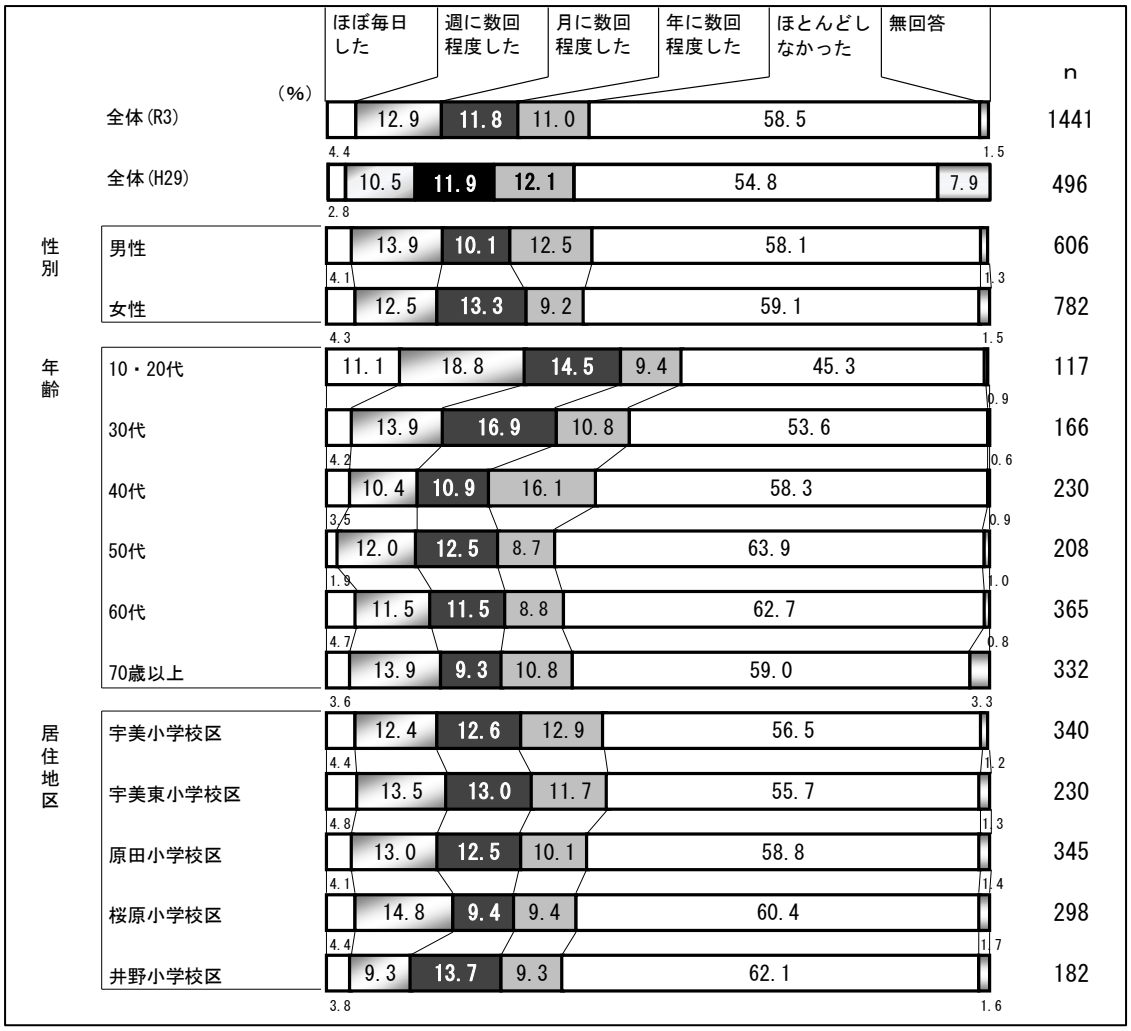
前回の調査結果と比較すると、“した”という率が約３ポイント増えている一方で「ほとんどしなかった」という率が約４ポイント増えていますが、どちらも大きくは変化していません。［下記【比較】参照］

属性別で“した”という率をみると、性別では、ほとんど違いはみられず、年齢別では、10・20 代（53.8%）で最も高く、次いで 30 代（45.8%）、40 代（40.9%）と続いています。［図表 20 参照］

【比較】

前回の調査結果　“した”が 37.3%、「ほとんどしなかった」が 54.8%。

図表 20　この１年間に生涯学習活動をしたか（全体・性別・年齢・居住地区）



（８）町内にある歴史文化遺産を誇りに思うか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

⑧あなたは、町内にある歴史文化遺産（遺跡・古墳・城跡など）を誇りに思いますか。

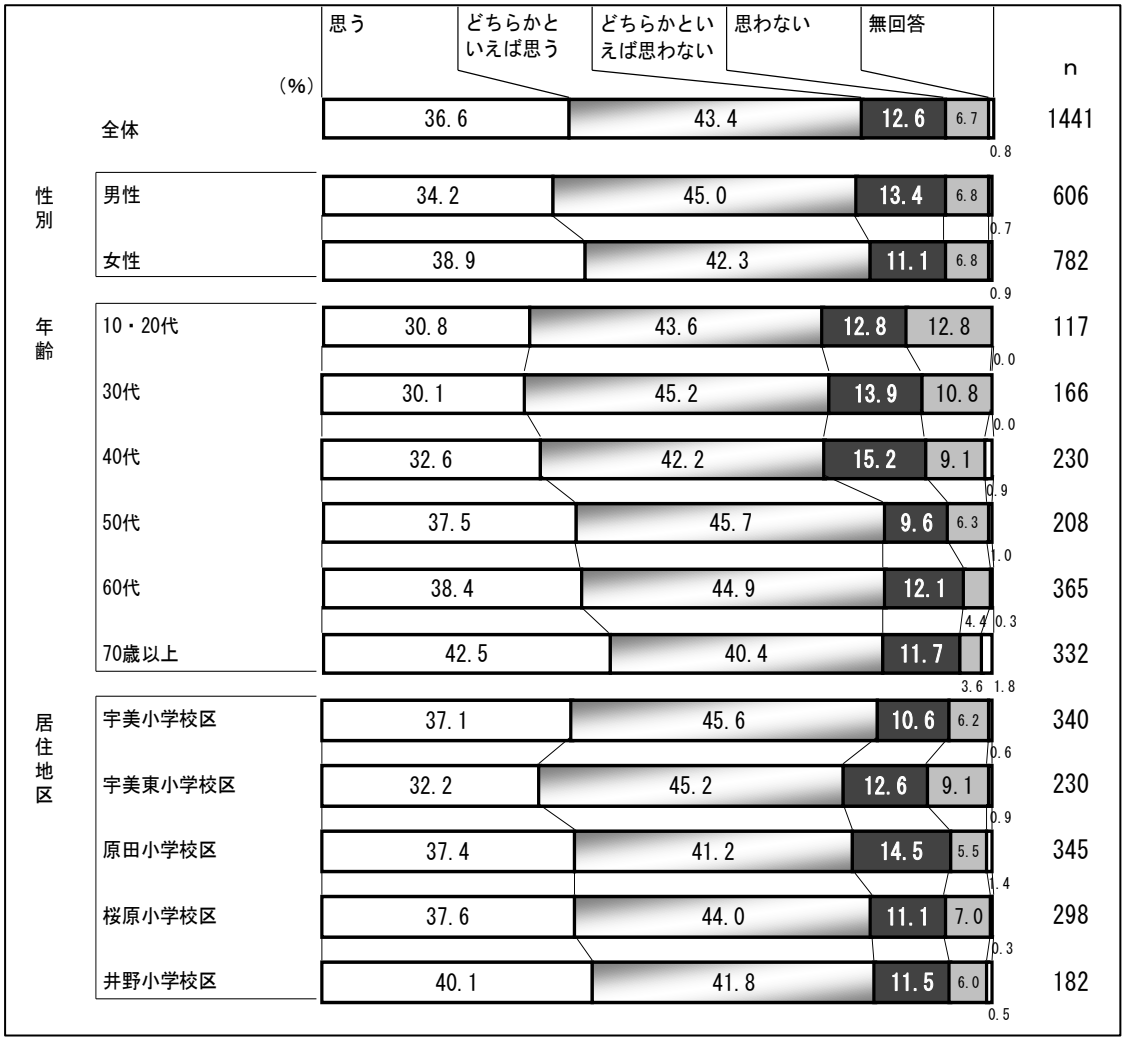
▼

● “思う”が 80.0%、“思わない”が 19.2%。

町内にある歴史文化遺産を誇りに思うかについては、“思う”という人（「思う」36.6%と「どちらかといえば思う」43.4%の合計）が 80.0%となっています。これに対し、“思わない”という人（「どちらかといえば思わない」12.6%と「思わない」6.7 の合計）は 19.2%で、大部分の町民が本町の歴史文化遺産を誇りに思っていることがうかがえます。

属性別で“思う”という率をみると、性別では、大きな違いはみられず、年齢別では、50 代以上（83.2%・83.3%・82.8%）で高くなっています。[図表 21 参照]

図表 21　町内にある歴史文化遺産を誇りに思うか（全体・性別・年齢・居住地区）



（９）大野城跡が日本遺産に認定されていることを知っているか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑨あなたは、町内にある大野城跡が日本遺産「西の都」の構成文化財として認定されていることを知っていますか。

▼

● “知っている”が 26.3%、“知らない”が 73.0%。

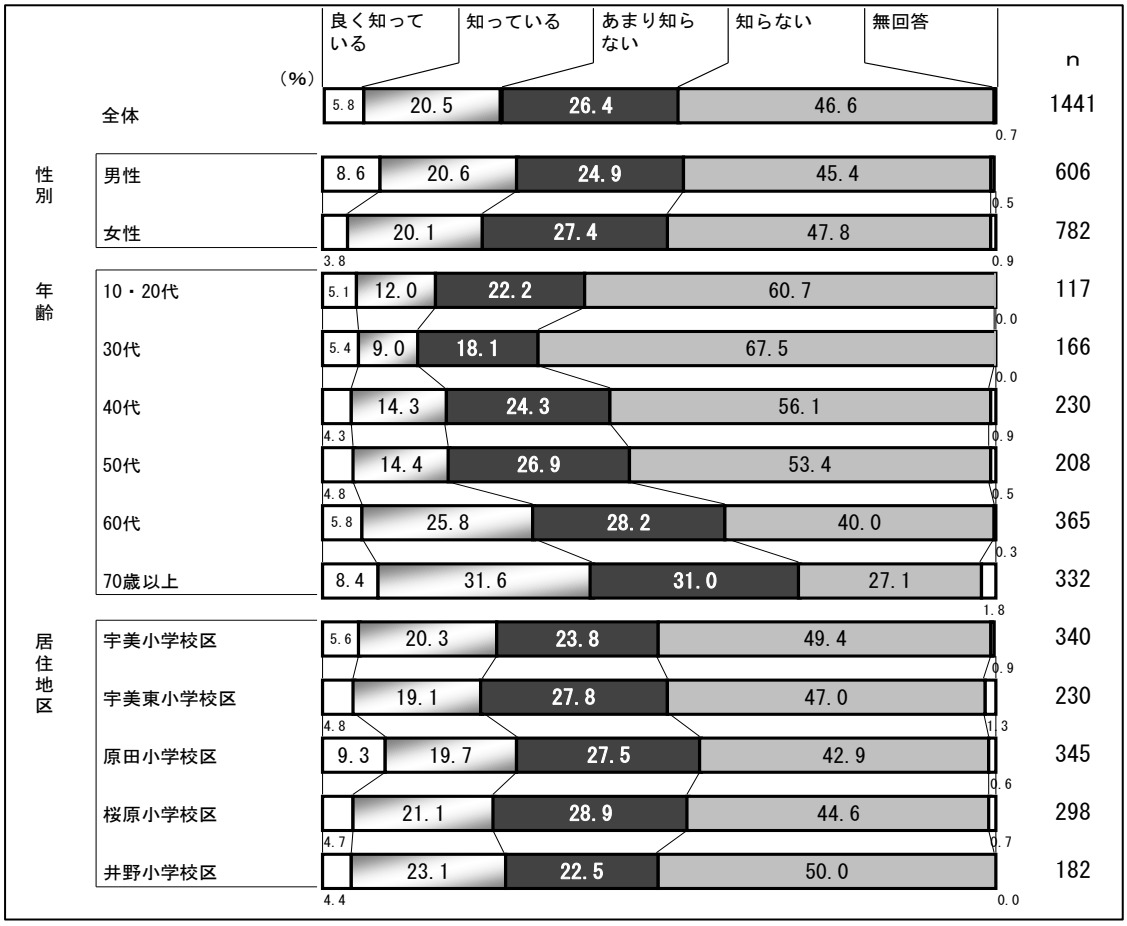
大野城跡が日本遺産に認定されていることについては、“知っている”という人（「良く知っている」5.8%と「知っている」20.5%の合計）が 26.3%となっています。これに対し、“知らない”という人（「あまり知らない」26.4%と「知らない」46.6%の合計）が 73.0%となっており、大野城跡が日本遺産に認定されていることは、町民にあまり知られていないことがうかがえます。

属性別で“知っている”という率をみると、性別では、男性（29.2%）が女性（23.9%）を約５ポイント上回っています。

年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、70 歳以上（40.1%）で高く、30 代（14.5%）で低くなっています。

居住地区別では、さほど大きな違いはみられませんが、原田小学校区（29.0%）でやや高くなっています。[図表 22 参照]

図表 22　大野城跡が日本遺産に認定されていることを知っているか
（全体・性別・年齢・居住地区）



(10) 宇美町電子図書館を利用できることを知っているか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

⑩あなたは、令和２年 12 月から宇美町電子図書館を利用できることを知っていますか。

▼

● 宇美町電子図書館を利用できることを知っている人は 20.0%。

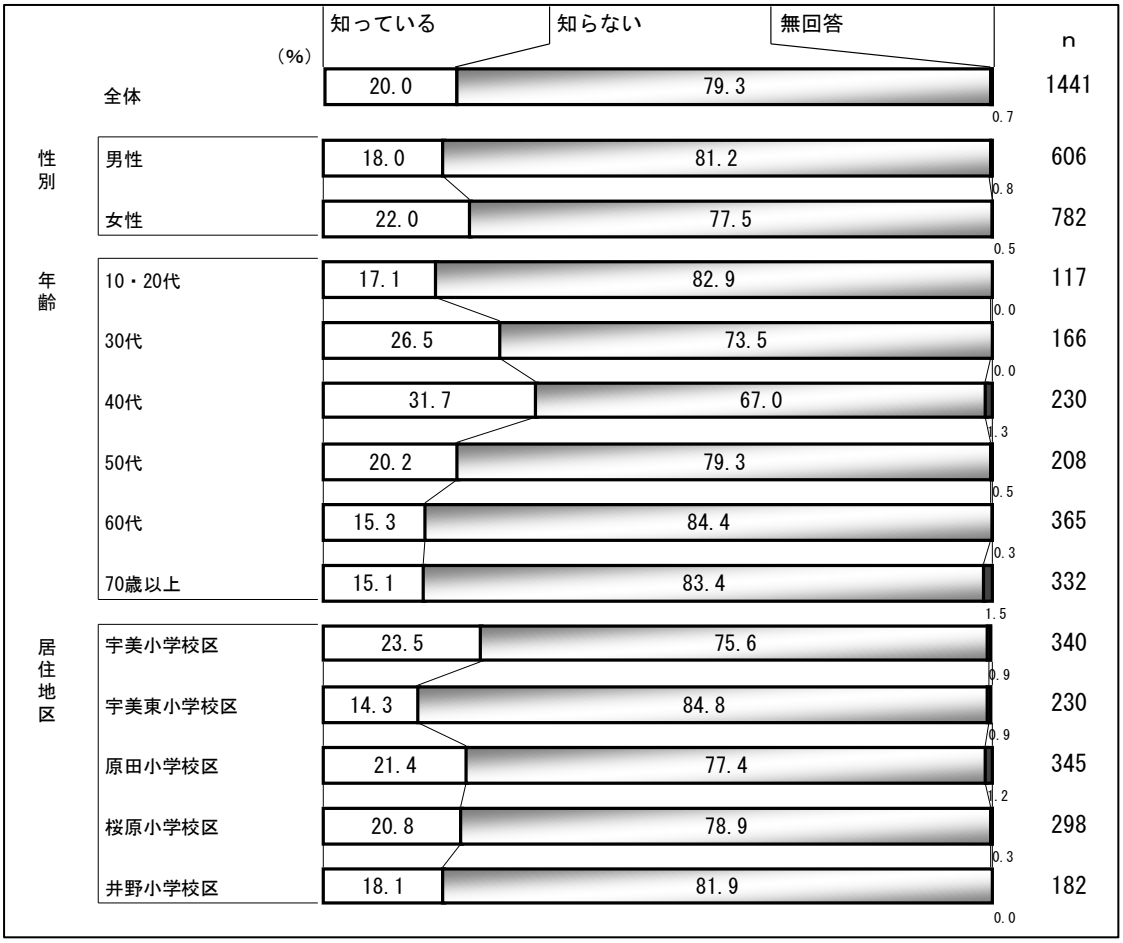
宇美町電子図書館を利用できることについては、「知っている」と答えた人が 20.0%、「知らない」と答えた人が 79.3%となっており、電子図書館の認知度は低いといえます。

属性別で「知っている」率をみると、性別では、女性（22.0%）が男性（18.0%）を４ポイント上回っています。

年齢別では、40 代（31.7%）と 30 代（26.5%）で高く、10・20 代（17.1%）や 60 代・70 歳以上（15.3%・15.1%）で低くなっています。

居住地区別では、宇美小学校区（23.5%）で高く、宇美東小学校区（14.3%）で低くなっています。[図表 23 参照]

図表 23　宇美町電子図書館を利用できることを知っているか
（全体・性別・年齢・居住地区）



（11）環境に配慮した生活をしているか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑪あなたは、環境美化や水質浄化、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど、環境に配慮した生活をしていますか。

▼

● 環境に配慮した生活をしている人は 69.3%。

環境に配慮した生活については、「している」と答えた人が 69.3%、「していない」と答えた人が 28.9%となっています。[図表 24 参照]

前回の調査結果と比較すると、「している」という率に大きな違いはみられず、環境に配慮した生活をしている町民の割合は変化していないことがうかがえます。[下記【比較】参照]

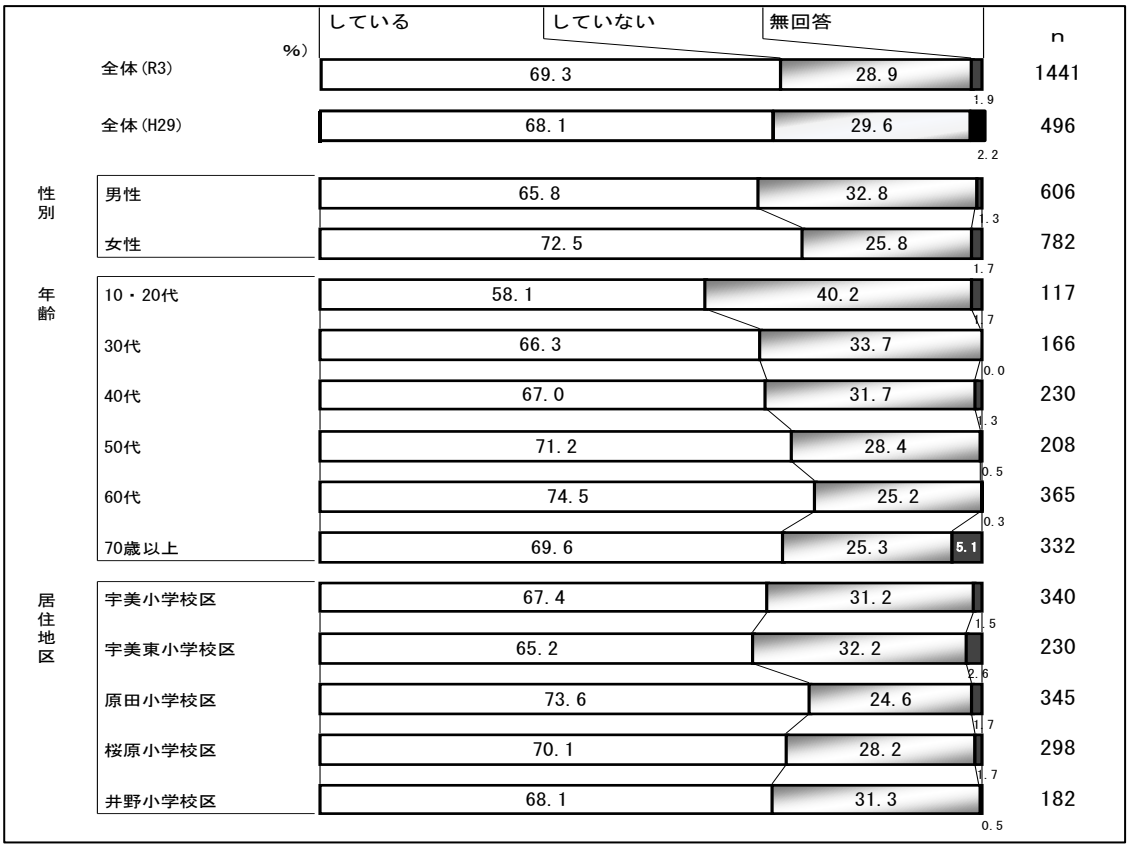
属性別で「している」という率をみると、性別では、女性（72.5%）が男性（65.8%）を約７ポイント上回り、年齢別では、60 代（74.5%）と 50 代（71.2%）で高く、10・20 代（58.1%）で低くなっています。

居住地区別では、原田小学校区（73.6%）で高く、宇美東小学校区（65.2%）で低くなっています。[図表 24 参照]

【比較】

前回の調査結果　「している」が 68.1%、「していない」が 29.6%。

図表 24　環境に配慮した生活をしているか（全体・性別・年齢・居住地区）



(12) ４Ｒ運動をしているか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑫あなたは、ごみの減量化のため、４Ｒ運動（リフューズ：発生回避、リデュース：排出抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）をしていますか。

▼

● ４Ｒ運動をしている人は 79.1%。

４Ｒ運動については、「している」と答えた人が 79.1%、「していない」と答えた人が 19.8%となっています。[図表 25 参照]

前回の調査結果と比較すると、「している」という率が約９ポイント上昇しており、この４年間で、４Ｒ運動をしている人が増えていることがうかがえます。[下記【比較】参照]

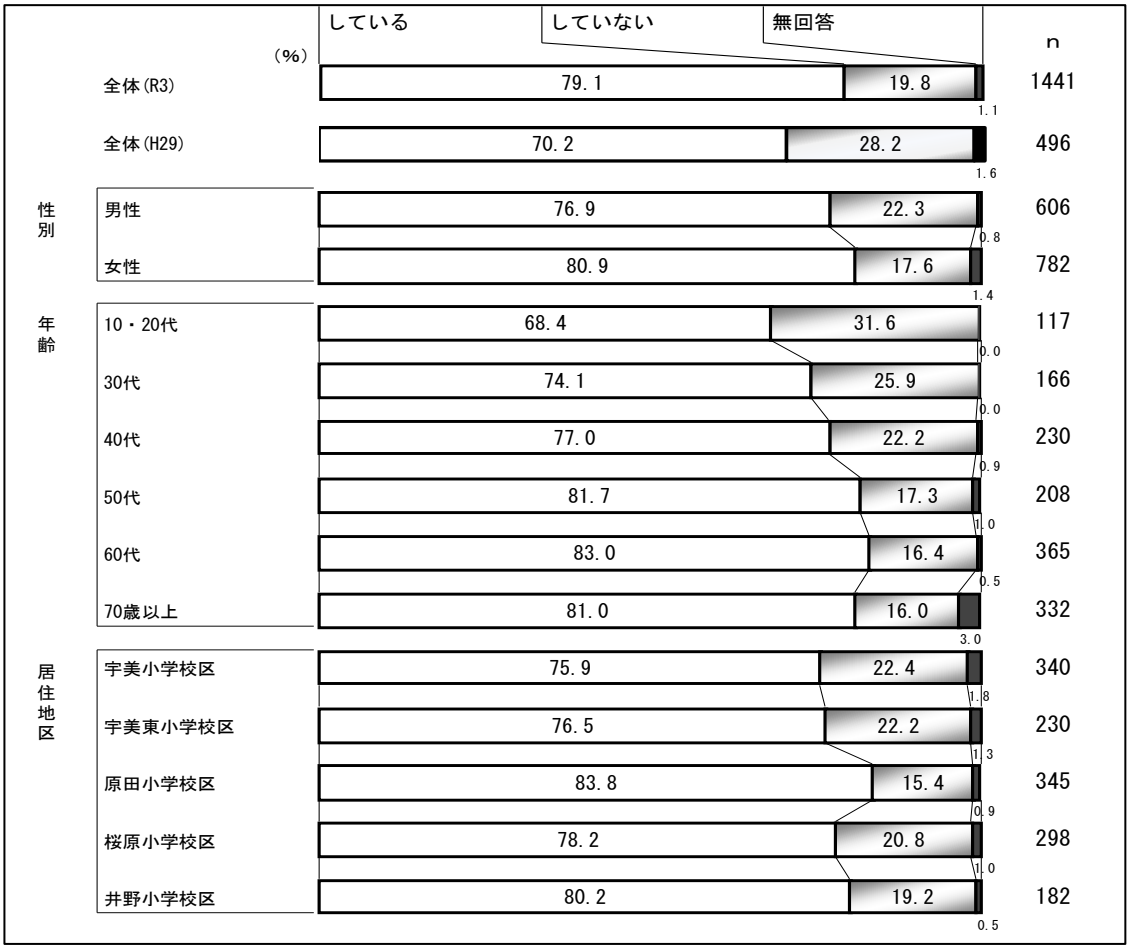
属性別で「している」という率をみると、性別では、女性（80.9%）が男性（76.9%）を４ポイント上回り、年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、50 代以上（81.7%・83.0%・81.0%）で高く、10・20 代（68.4%）で低くなっています。

居住地区別では、原田小学校区（83.8%）で高くなっています。[図表 25 参照]

【比較】

前回の調査結果　「している」が 70.2%、「していない」が 28.2%。

図表 25　４Ｒ運動をしているか（全体・性別・年齢・居住地区）



(13) 自然と共生する魅力あるまちづくりが行われているか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑬あなたは、宇美町では、自然と共生する魅力あるまちづくりが行われていると思いますか。

▼

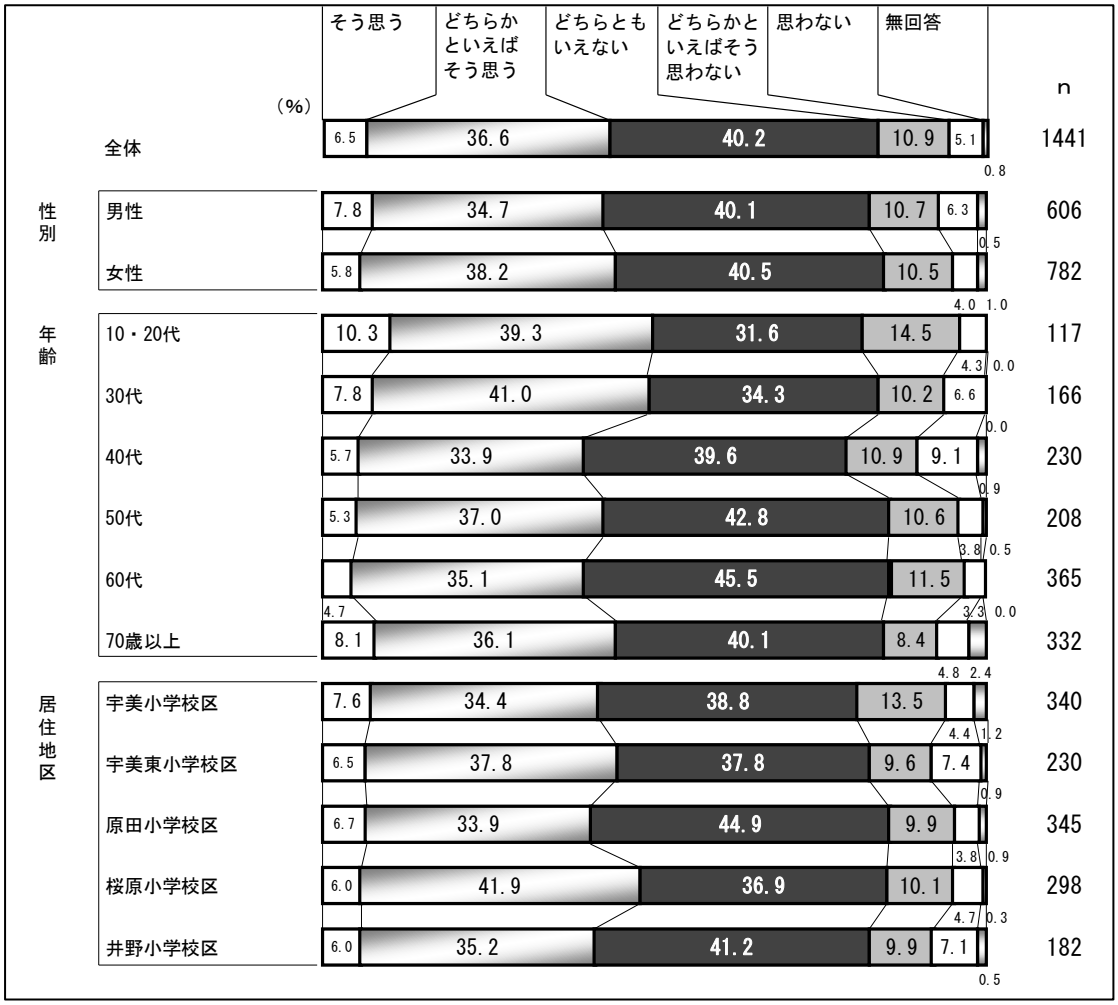
● “そう思う”が 43.1%、“そう思わない”が 16.0%。

自然と共生する魅力あるまちづくりが行われていると思うかについては、“そう思う”という人（「そう思う」6.5%と「どちらかといえばそう思う」36.6%の合計）が 43.1%となっています。これに対し、“そう思わない”という人（「どちらかといえばそう思わない」10.9%と「思わない」5.1%の合計）は 16.0%となっています。

属性別で“そう思う”という率をみると、性別では、大きな違いはみられず、年齢別では、10・20 代と 30 代（49.6%・48.8%）で高くなっています。

居住地区別では、さほど大きな違いはみられませんが、桜原小学校区（48.0%）でやや高くなっています。[図表 26 参照]

図表 26　自然と共生する魅力あるまちづくりが行われているか（全体・性別・年齢・居住地区）



（14）情報を得るために使っている手段

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑭あなたが町の情報を得るために使っている手段は次のどれですか。【複数回答】

▼

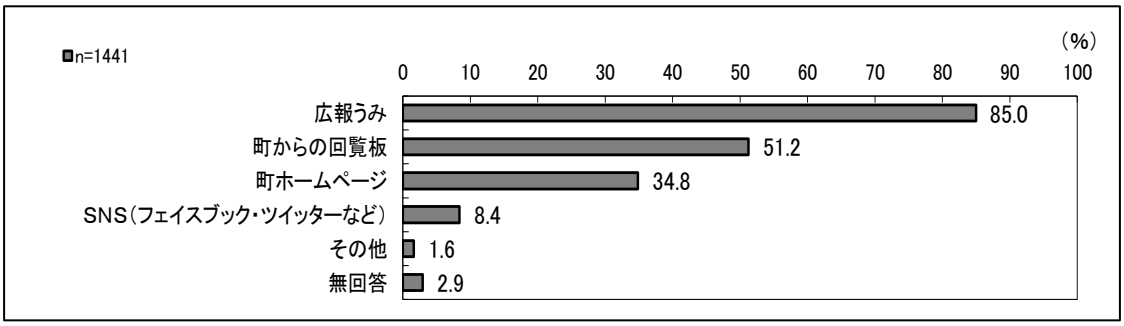
● 「広報うみ」が他を引き離して第１位、次いで「町からの回覧板」、「町ホームページ」の順。

町の情報を得るために使っている手段については、「広報うみ」（85.0%）が他を引き離して第１位となっており、９割近くの町民が広報紙から町の情報を入手していることがうかがえます。これ以外では、「町からの回覧板」(51.2%)、「町ホームページ」（34.8%)、「ＳＮＳ（フェイスブック・ツイッターなど)」(8.4%）の順となっています。[図表 27 参照]

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「広報うみ」が第１位、ほとんどの属性で「町からの回覧板」が第２位となっていますが、10・20 代～40 代では「町ホームページ」が第２位となっており、40 代以下の層では、広報紙に次いで、ホームページが町情報の入手手段となっていることがうかがえます。

また、10・20 代では「ＳＮＳ（フェイスブック・ツイッターなど)」(25.6%）が第３位で、他の属性と違った傾向を示しており、また、その比率をみると、およそ４人に１人がＳＮＳを利用していることがわかります。[図表 28 参照]

図表 27　情報を得るために使っている手段（全体／複数回答）



図表 28　情報を得るために使っている手段

（全体・性別・年齢・居住地区－上位３位／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		広報うみ 85.0	町からの回覧板 51.2	町ホームページ 34.8
性別	男性	広報うみ 83.8	町からの回覧板 51.7	町ホームページ 33.0
	女性	広報うみ 85.9	町からの回覧板 51.4	町ホームページ 37.0
年齢	10・20代	広報うみ 64.1	町ホームページ 33.3	ＳＮＳ（フェイスブック・ツイッターなど） 25.6
	30代	広報うみ 79.5	町ホームページ 47.0	町からの回覧板 38.6
	40代	広報うみ 77.4	町ホームページ 47.4	町からの回覧板 43.0
	50代	広報うみ 84.1	町からの回覧板 49.0	町ホームページ 43.8
	60代	広報うみ 93.2	町からの回覧板 62.2	町ホームページ 32.3
	70歳以上	広報うみ 91.9	町からの回覧板 63.6	町ホームページ 18.1
居住地区	宇美小学校区	広報うみ 84.1	町からの回覧板 46.5	町ホームページ 33.2
	宇美東小学校区	広報うみ 85.2	町からの回覧板 52.6	町ホームページ 30.0
	原田小学校区	広報うみ 86.1	町からの回覧板 52.5	町ホームページ 35.9
	桜原小学校区	広報うみ 86.6	町からの回覧板 54.7	町ホームページ 36.6
	井野小学校区	広報うみ 84.6	町からの回覧板 53.8	町ホームページ 38.5

（15）今後の宇美町職員に特に求めるもの

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑮あなたが今後の宇美町職員に特に求めるものは何ですか。【複数回答】

▼

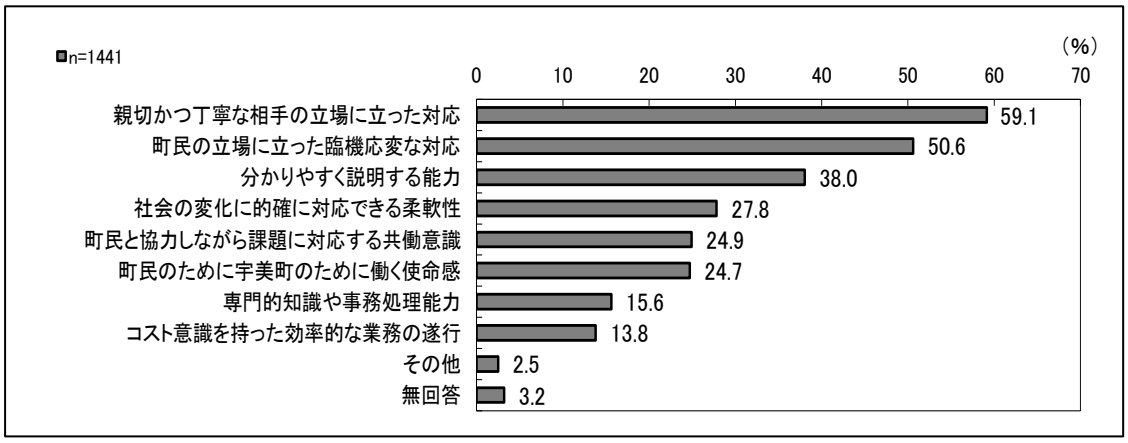
● 「親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応」、「町民の立場に立った臨機応変な対応」、「分かりやすく説明する能力」の順。

今後の宇美町職員に特に求めるものについては、「親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応」（59.1%）が第１位、「町民の立場に立った臨機応変な対応」（50.6%）が第２位、「分かりやすく説明する能力」（38.0%）が第３位で、これらは以下をやや引き離して代表的な要望となっています。

これら以外では、「社会の変化に的確に対応できる柔軟性」（27.8%）、「町民と協力しながら課題に対応する共働意識」（24.9%）、「町民のために宇美町のために働く使命感」（24.7%）などの順となっています。[図表 29 参照]

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応」が第１位、「町民の立場に立った臨機応変な対応」が第２位で、ほとんど違いはみられず、性別や年齢、居住地区にかかわらず、“親切・丁寧さ”と“臨機応変さ”が求められていることがうかがえます。[図表 30 参照]

図表 29　今後の宇美町職員に特に求めるもの（全体／複数回答）



図表 30　今後の宇美町職員に特に求めるもの
（全体・性別・年齢・居住地区－上位３位／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 59.1	町民の立場に立った臨機応変な対応 50.6	分かりやすく説明する能力 38.0
性別	男性	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 56.3	町民の立場に立った臨機応変な対応 49.3	分かりやすく説明する能力 34.3
	女性	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 62.5	町民の立場に立った臨機応変な対応 52.0	分かりやすく説明する能力 41.2
年齢	10・20代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 54.7	町民の立場に立った臨機応変な対応 45.3	社会の変化に的確に対応できる柔軟性 34.2
	30代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 63.9	町民の立場に立った臨機応変な対応 47.6	分かりやすく説明する能力 36.7
	40代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 54.3	町民の立場に立った臨機応変な対応 47.8	分かりやすく説明する能力／社会の変化に的確に対応できる柔軟性 36.5
	50代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 60.1	町民の立場に立った臨機応変な対応 44.7	分かりやすく説明する能力 36.5
	60代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 61.1	町民の立場に立った臨機応変な対応 55.3	分かりやすく説明する能力 40.0
	70歳以上	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 59.6	町民の立場に立った臨機応変な対応 54.2	分かりやすく説明する能力 41.0
居住地区	宇美小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 57.4	町民の立場に立った臨機応変な対応 50.9	分かりやすく説明する能力 39.7
	宇美東小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 61.7	町民の立場に立った臨機応変な対応 54.3	分かりやすく説明する能力 39.6
	原田小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 60.0	町民の立場に立った臨機応変な対応 50.4	分かりやすく説明する能力 34.5
	桜原小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 60.7	町民の立場に立った臨機応変な対応 48.0	分かりやすく説明する能力 37.6
	井野小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 53.3	町民の立場に立った臨機応変な対応 50.0	分かりやすく説明する能力 39.0

（16）公共施設の更新問題を知っているか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑯あなたは、「公共施設の更新問題（老朽化問題）」を知っていますか。

▼

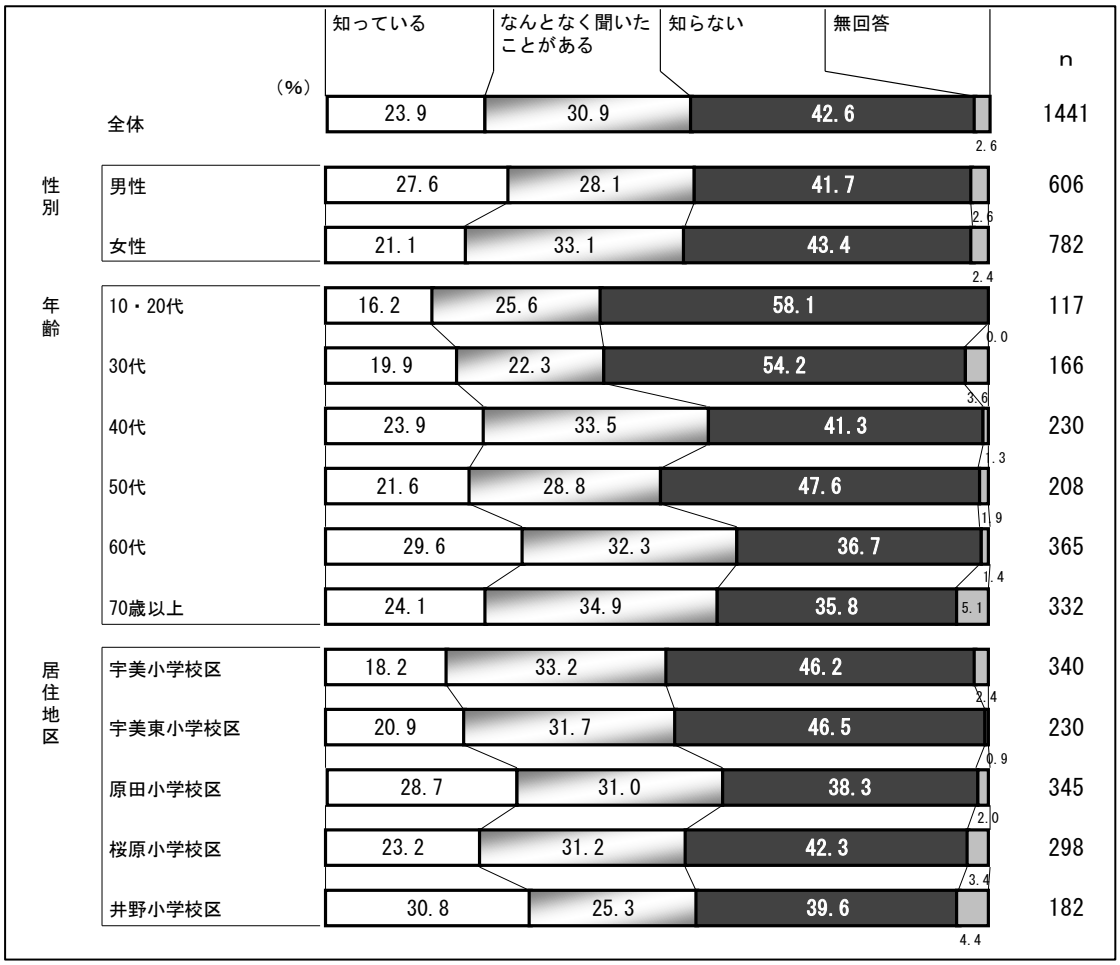
● 公共施設の更新問題を知っている人は 23.9%。

公共施設の更新問題を知っているかについては、「知っている」と答えた人が 23.9%、「なんとなく聞いたことがある」と答えた人が 30.9%、「知らない」と答えた人が 42.6%となっており、認知度が低いことがうかがえます。

属性別で「知っている」という率をみると、性別では、男性（27.8%）が女性（21.1%）を約７ポイント上回り、年齢別では、60 代（29.6%）で高く、10・20 代（16.2%）と 30 代（19.9%）で低くなっています。

居住地区別では、井野小学校区（30.8%）と原田小学校区（28.7%）で高く、宇美小学校区（18.2%）で低くなっています。[図表 31 参照]

図表 31　公共施設の更新問題を知っているか（全体・性別・年齢・居住地区）



(17) 議会審議の動画を見たいか

問７　あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑰あなたは、議会審議の様子が動画で配信される場合、スマートフォン・パソコンで見たいと思いますか。

▼

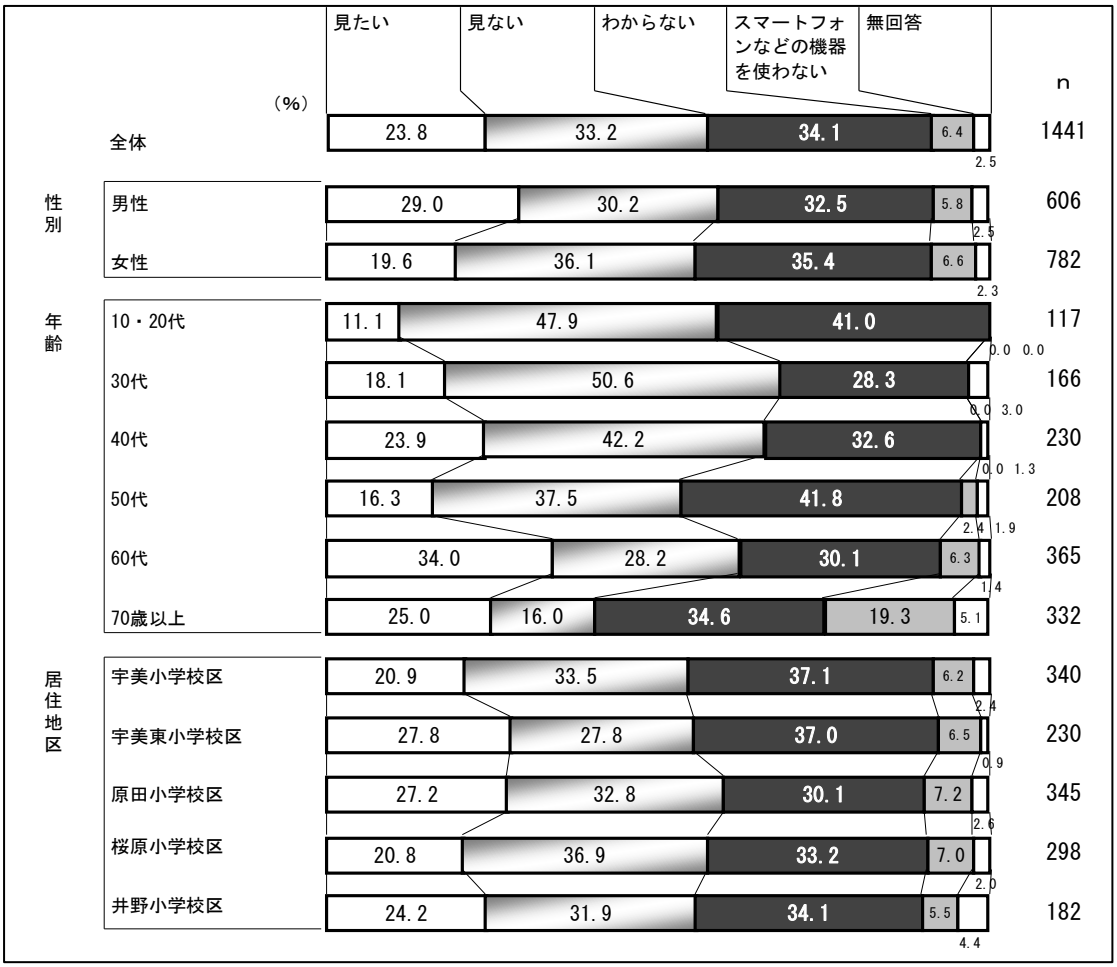
● **議会審議の動画を見たい人は 23.8%。**

議会審議の動画を見たいかについては、「見たい」と答えた人が 23.8%、「見ない」と答えた人が 33.2%、「わからない」という人が 34.1%、「スマートフォンなどの機器を使わない」という人が 6.4%となっています。

属性別で「見たい」という率をみると、性別では、男性（29.0%）が女性（19.6%）を約９ポイント上回り、年齢別では、60 代(34.0%)、70 歳以上(25.0%)、40 代(23.9%)で高くなっています。

居住地区別では、宇美東小学校区（27.8%）と原田小学校区（27.2%）で高くなっています。[図表 32 参照]

図表 32　議会審議の動画を見たいか（全体・性別・年齢・居住地区）



４　地域コミュニティ・共働について

（１）地域活動への参加状況と参加意向

問８　あなたの現在の地域コミュニティ活動・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。

▼

- **現在“参加している”が 18.3%、“参加していない”が 73.8%。**
- **今後“参加したい”が 34.6%、“参加するつもりはない”が 57.5%。**

地域活動について、現在の参加状況をみると、“参加している”という人（「現在参加しており今後も参加したい」14.0%と「参加しているが今後は参加するつもりはない」4.3%の合計）が 18.3%となっており、一方、“参加していない”という人（「現在参加していないが今後は参加したい」20.5%と「参加しておらず今後も参加するつもりはない」53.2%の合計）が 73.8%となっています。

また、今後の参加意向をみると、“参加したい”という人（現在参加しており今後も参加したい」14.0%と「現在参加していないが今後は参加したい」20.5%の合計）が 34.6%となっており、一方、“参加するつもりはない”という人（「参加しているが今後は参加するつもりはない」4.3%と「参加しておらず今後も参加するつもりはない」53.2%の合計）が 57.5%となっています。**[図表 33 参照]**

前回の調査結果と比較すると、現在の参加状況については、“参加している”という率が約４ポイント低下していますが、大きな差はありません。また、今後の参加意向については、“参加したい”という率が約６ポイント低下しており、参加意向がやや弱まっていることがうかがえます。**[下記【比較】参照]**

属性別で今後の参加意向をみると、“参加したい”という率は、性別では、男性（39.4%）が女性（30.6%）を約９ポイント上回っており、年齢別では、60 代（39.2%）と 70 歳以上（37.0%）で高くなっています。

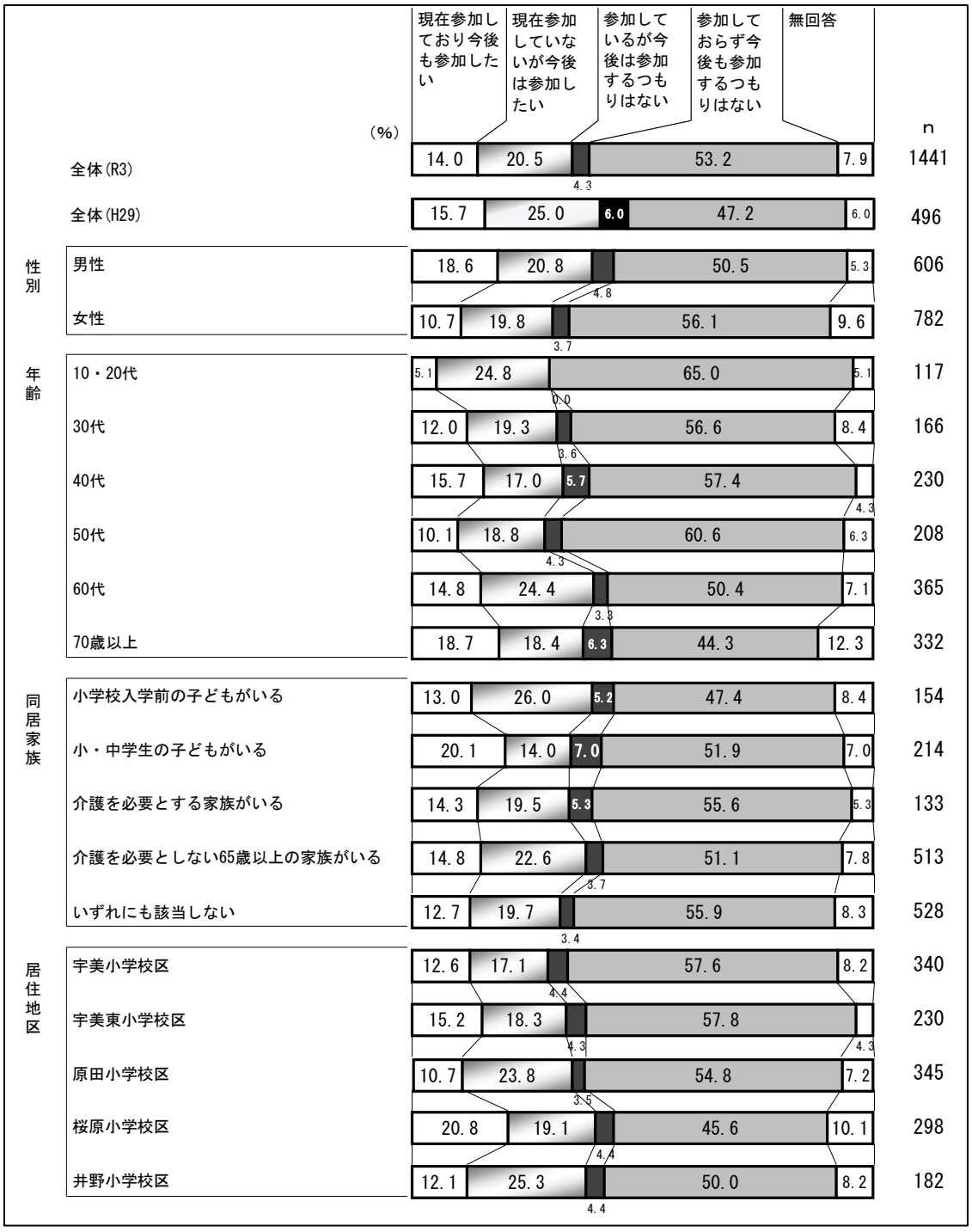
同居家族別では、大きな違いはみられませんが、小学校入学前の子どもがいる人（39.0%）と介護を必要としない 65 歳以上の家族がいる人（37.4%）でやや高くなっています。

居住地区別では、桜原小学校区（39.9%）で最も高くなっています。**[図表 33 参照]**

【比較】

前回の調査結果	**現在“参加している”が 21.8%、“参加していない”が 72.2%。**
	今後“参加したい”が 40.7%、“参加するつもりはない”が 53.2%。

図表 33　地域活動への参加状況と参加意向（全体・性別・年齢・同居家族・居住地区）



（２）今後参加したい地域活動等

※問８で「１.」または「２.」に○をつけた方にうかがいます。
問８－２　あなたは、今後（今後とも）どのような地域コミュニティ活動・ボランティア活動に参加したいと思いますか。【複数回答】

▼

● 「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」、「子育て支援に関する活動」、「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」の順。

問８で“参加したい”と答えた 498 人（全体の 34.5%）に、今後参加したい地域活動等をたずねたところ、「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」（28.5%）が第１位、「子育て支援に関する活動」（24.3%）が第２位、「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」（21.5%）が第３位となっており、“環境保全”や“子育て支援”“地域自治”に関する活動に参加したいという人が多くなっています。[図表 34 参照]

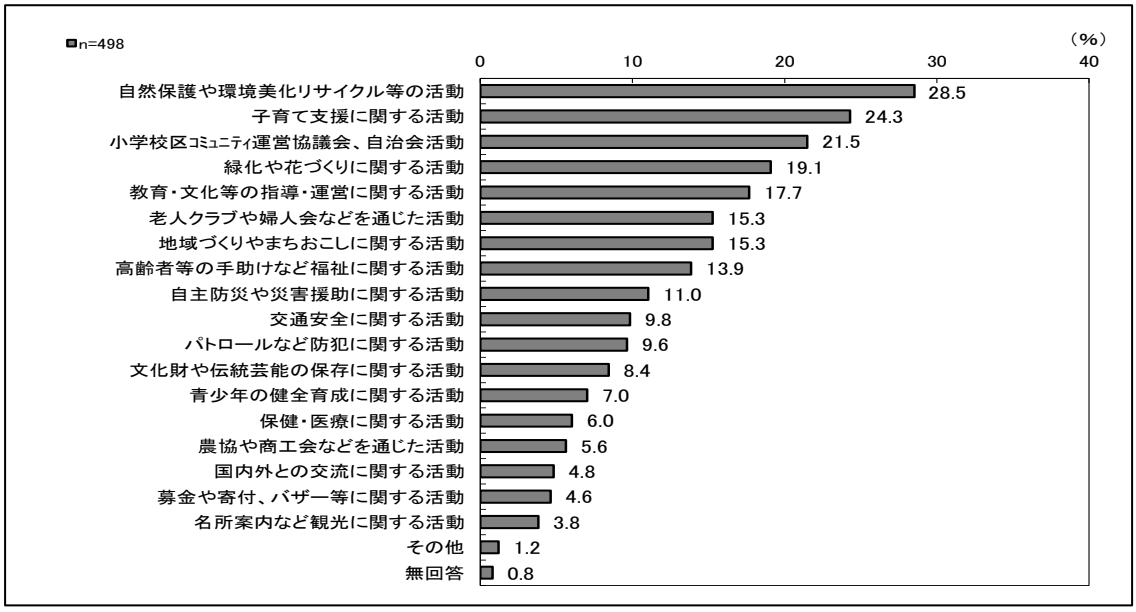
前回の調査結果と比較すると、前回第１位の「老人クラブや婦人会などを通じた活動」は第６位に、前回第２位の「緑化や花づくりに関する活動」は第４位に順位を下げ、今回は、前回第５位の「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」が第１位、前回第７位の「子育て支援に関する活動」が第２位に順位を上げるなど、参加したい活動が大きく変化してきていることがうかがえます。[下記【比較】参照]

属性別でみると、多くの属性で町全体と同様に「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」が第１位となっていますが、女性や 30 代～50 代、宇美小学校区、桜原小学校区では「子育て支援に関する活動」、50 代では「教育・文化等の指導・運営に関する活動」、70 歳以上では「老人クラブや婦人会などを通じた活動」、宇美小学校区では「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」が第１位（同率含む）で、性別や年齢、居住地区によって最も参加したい活動に違いがみられます。[図表 35 参照]

【比較】

前回の調査結果	「老人クラブや婦人会などを通じた活動」、「緑化や花づくりに関する活動」、「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」の順。

図表 34　今後参加したい地域活動等（全体／複数回答）



図表 35　今後参加したい地域活動等

（全体・性別・年齢・居住地区－上位３位／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 28.5	子育て支援に関する活動 24.3	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 21.5
性別	男性	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 30.1	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 25.5	教育・文化等の指導・運営に関する活動 20.1
	女性	子育て支援に関する活動 34.7	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 27.2	緑化や花づくりに関する活動 22.2
年齢	10・20代	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 37.1	子育て支援に関する活動／緑化や花づくりに関する活動／教育・文化等の指導・運営に関する活動 28.6	
	30代	子育て支援に関する活動 50.0	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 34.6	教育・文化等の指導・運営に関する活動 25.0
	40代	子育て支援に関する活動 41.3	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動／教育・文化等の指導・運営に関する活動 28.0	
	50代	子育て支援に関する活動／教育・文化等の指導・運営に関する活動 25.0		自然保護や環境美化、リサイクル等の活動／地域づくりやまちおこしに関する活動 23.3
	60代	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 35.7	緑化や花づくりに関する活動 22.4	子育て支援に関する活動／高齢者等の手助けなど福祉に関する活動 18.2
	70歳以上	老人クラブや婦人会などを通じた活動 37.4	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 29.3	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 22.8
居住地区	宇美小学校区	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動／子育て支援に関する活動／小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 27.7		
	宇美東小学校区	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 35.1	子育て支援に関する活動／老人クラブや婦人会などを通じた活動 22.1	
	原田小学校区	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 28.6	緑化や花づくりに関する活動 24.4	教育・文化等の指導・運営に関する活動 21.0
	桜原小学校区	子育て支援に関する活動 28.6	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 26.1	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 22.7
	井野小学校区	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 32.4	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 25.0	子育て支援に関する活動／高齢者等の手助けなど福祉に関する活動 20.6

（３）今後参加しない理由

※問８で「３.」または「４.」に○をつけた方にうかがいます。
問８－３　今後（今後とも）参加しない理由は何ですか。【複数回答】

▼

● 「仕事で時間がとれない」が他を引き離して第１位。次いで「他にすることがある」、「興味が持てない」の順。

問８で「参加するつもりはない”と答えた 829 人（全体の 57.5%）に、今後参加しない理由をたずねたところ、「仕事で時間がとれない」（47.5%）が他を引き離して第１位となっています。これ以外では、「他にすることがある」（30.0%）、「興味が持てない」（27.4%）などの順となっています。[図表 36 参照]

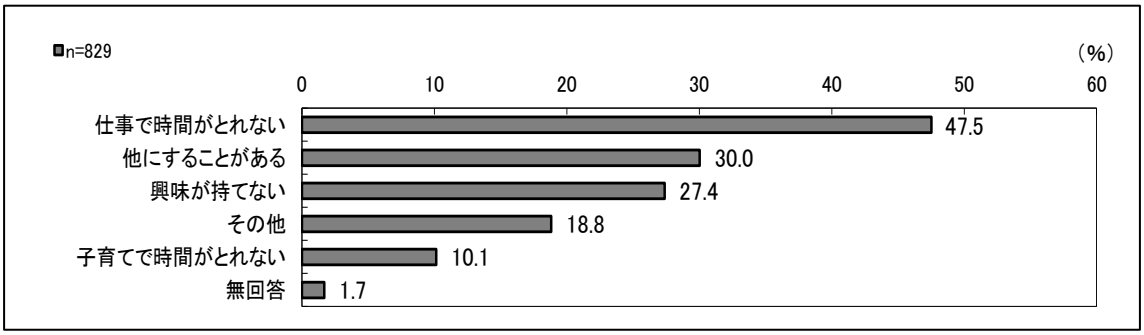
前回の調査結果と比較すると、ほぼ同様の結果となっており、大きな変化はみられません。[下記【比較】参照]

属性別でみると、ほとんどの属性で町全体と同様に「仕事で時間がとれない」が第１位となっていますが、10・20 代や 60 代、70 歳以上では「他にすることがある」、小学校入学前の子どもがいる人では「子育てで時間がとれない」が第１位となっています。[図表 37 参照]

【比較】

前回の調査結果　「仕事で時間がとれない」、「他にすることがある」、「興味が持てない」の順。

図表 36　今後参加しない主な理由（全体／複数回答）



図表 37　今後参加しない理由

（全体・性別・年齢・同居家族・居住地区－上位３位／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		仕事で時間がとれない 47.5	他にすることがある 30.0	興味が持てない 27.4
性別	男性	仕事で時間がとれない 54.6	他にすることがある 26.6	興味が持てない 26.0
	女性	仕事で時間がとれない 42.7	他にすることがある 32.1	興味が持てない 28.0
年齢	10・20代	他にすることがある 47.4	仕事で時間がとれない 43.4	興味が持てない 30.3
	30代	仕事で時間がとれない 73.0	子育てで時間がとれない 38.0	興味が持てない 23.0
	40代	仕事で時間がとれない 66.9	興味が持てない 27.6	他にすることがある 26.2
	50代	仕事で時間がとれない 69.6	他にすることがある 23.7	興味が持てない 23.0
	60代	他にすることがある 36.2	仕事で時間がとれない 35.2	興味が持てない 29.6
	70歳以上	他にすることがある 30.4	興味が持てない 29.8	仕事で時間がとれない 14.3
同居家族	小学校入学前の子どもがいる	子育てで時間がとれない 67.9	仕事で時間がとれない 65.4	興味が持てない 14.8
	小・中学生の子どもがいる	仕事で時間がとれない 65.9	子育てで時間がとれない 37.3	他にすることがある 27.0
	介護を必要とする家族がいる	仕事で時間がとれない 42.0	他にすることがある 38.3	興味が持てない 28.4
	介護を必要としない65歳以上の家族がいる	仕事で時間がとれない 42.0	他にすることがある 30.6	興味が持てない 27.8
	いずれにも該当しない	仕事で時間がとれない 45.7	他にすることがある 31.6	興味が持てない 30.0
居住地区	宇美小学校区	仕事で時間がとれない 55.9	他にすることがある 24.2	興味が持てない 21.8
	宇美東小学校区	仕事で時間がとれない 45.5	他にすることがある 30.1	興味が持てない 23.8
	原田小学校区	仕事で時間がとれない 42.8	他にすることがある 35.3	興味が持てない 34.3
	桜原小学校区	仕事で時間がとれない 43.0	興味が持てない／他にすることがある 30.9	
	井野小学校区	仕事で時間がとれない 48.5	他にすることがある 32.3	興味が持てない 24.2

（４）共働のまちづくりを進めるために必要なこと

問９　宇美町では、町民の皆様と行政が、お互いの立場を尊重しながら協力・連携する関係のみならず、共働のパートナーという対等な関係で、より豊かなまちづくりを実現するために取り組んでいます。
　この「共働のまちづくり」を進めるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。【複数回答】

▼

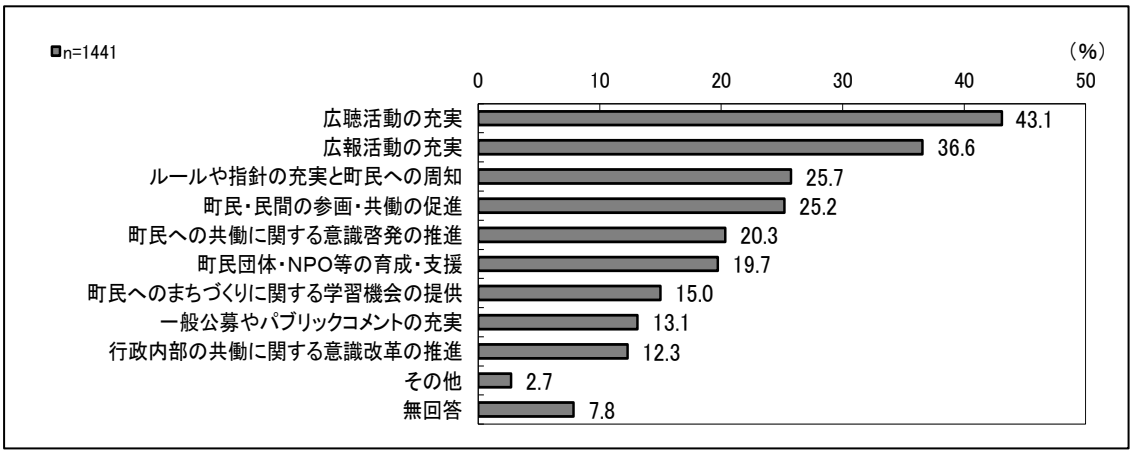
● 「広聴活動の充実」と「広報活動の充実」が他を引き離して第１・２位を占める。

共働のまちづくりを進めるために必要なことについては、「広聴活動の充実」（43.1%）と「広報活動の充実」（36.6%）が他を引き離して第１・２位を占める結果となっており、“町民の意見や要望を聞く機会の充実”と“行政情報の提供・公開”が特に重視されています。

これら以外では、「ルールや指針の充実と町民への周知」（25.7%）、「町民・民間の参画・共働の促進」（25.2%）、「町民への共働に関する意識啓発の推進」（20.3%）、「町民団体・ＮＰＯ等の育成・支援」（19.7%）などの順となっています。[図表 38 参照]

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「広聴活動の充実」と「広報活動の充実」が第１・２位を占め、ほとんど同様の結果となっており、性別や年齢、居住地区に関わらず、“町民の意見や要望を聞く機会の充実”と“行政情報の提供・公開”が特に重視されていることがうかがえます。[図表 39 参照]

図表 38　共働のまちづくりを進めるために必要なこと（全体／複数回答）



図表 39　共働のまちづくりを進めるために必要なこと
（全体・性別・年齢・居住地区－上位３位／複数回答）

（単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		広聴活動の充実 43.1	広報活動の充実 36.6	ルールや指針の充実と町民への周知 25.7
性別	男性	広聴活動の充実 41.9	広報活動の充実 38.8	ルールや指針の充実と町民への周知 29.5
	女性	広聴活動の充実 43.5	広報活動の充実 34.9	町民・民間の参画・共働の促進 23.9
年齢	10・20代	広聴活動の充実 45.3	広報活動の充実 34.2	ルールや指針の充実と町民への周知 32.5
	30代	広聴活動の充実 39.8	広報活動の充実 31.3	ルールや指針の充実と町民への周知／町民・民間の参画・共働の促進 27.7
	40代	広聴活動の充実 43.9	広報活動の充実 31.3	町民・民間の参画・共働の促進 29.1
	50代	広聴活動の充実 42.3	広報活動の充実 36.1	ルールや指針の充実と町民への周知 26.0
	60代	広聴活動の充実 46.0	広報活動の充実 39.2	町民・民間の参画・共働の促進 23.8
	70歳以上	広聴活動の充実／広報活動の充実 40.7		ルールや指針の充実と町民への周知 23.8
居住地区	宇美小学校区	広聴活動の充実／広報活動の充実 40.9		ルールや指針の充実と町民への周知 26.2
	宇美東小学校区	広聴活動の充実 44.3	広報活動の充実 39.1	町民・民間の参画・共働の促進 26.5
	原田小学校区	広聴活動の充実 45.8	広報活動の充実 33.0	ルールや指針の充実と町民への周知 26.1
	桜原小学校区	広聴活動の充実 41.3	広報活動の充実 33.2	町民・民間の参画・共働の促進 25.5
	井野小学校区	広聴活動の充実 41.8	広報活動の充実 34.6	ルールや指針の充実と町民への周知 28.6

５　幸福実感について

（１）幸福実感について

問 10　現在、あなたは実感としてどの程度幸せですか。「とても幸せ」を１０点、「とても不幸」を０点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を１つだけ選び、○で囲んでください。

▼

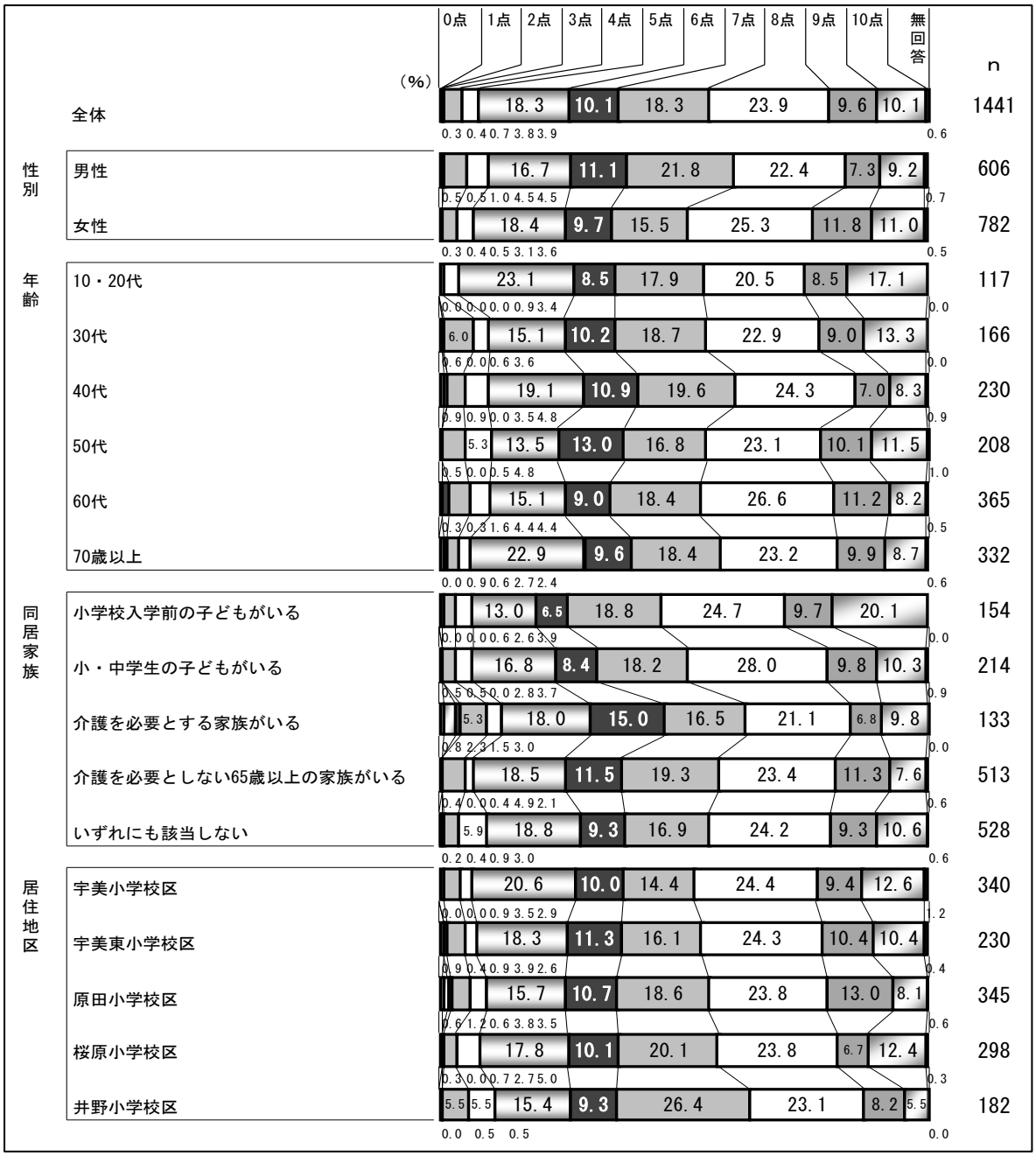
● 「８点」、「７点」・「５点」の順で、平均点は 6.91 点。

現在の幸福実感について、「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を０点として点数づけをしてもらいました。

その結果、「８点」と答えた人が 23.9%で最も多く、次いで「７点」と「５点」が同率で 18.3%、「６点」と「10 点」が同率で 10.1%、「９点」が 9.6%、「４点」が 3.9%、「３点」が 3.8%、「２点」が 0.7%、「１点」が 0.4%、「０点」が 0.3%となっており、全体の平均点を求めると、6.91 点となっています。**[図表 40 参照]**

福岡県が令和２年度に実施した県民意識調査（18 歳以上の県民 4.000 人を対象に郵送法で実施、有効回収数 1,902、有効回収率 47.6%）の結果と比較すると、本町の幸福実感の平均点は、福岡県平均を 0.22 点上回っているほか、この調査の地域別結果（北九州地域、福岡地域、筑豊地域、筑後地域の４地域に区分されている）で最も高かった福岡地域平均も 0.11 点上回っています。**[下記【比較】参照]**

【比較】

令和２年度福岡県県民意識調査	幸福実感の平均点は、福岡県全体で 6.69 点、福岡地域で 6.80 点（北九州地域で 6.60 点、筑豊地域で 6.58 点、筑後地域で 6.54 点）。

図表 40　幸福実感について（全体・性別・年齢・居住地区）